

4. 投資信託保有状況(現在保有層)

(1) 投資信託の保有種類〔問5①〕

現在保有層が保有している投資信託の種類は、「株式投資信託」が71.3%で最も高く、次いで「外国で作られた投資信託」(36.0%)、「公社債投資信託」(31.6%)の順となっている。「不動産投信(J-REIT)」(12.6%)や「ETF」(8.6%)の保有率は10%前後と低い。

なお、投資信託保有種類数(重複回答分)を回答サンプルで除して求めた平均保有数は、1.60種類となっている。

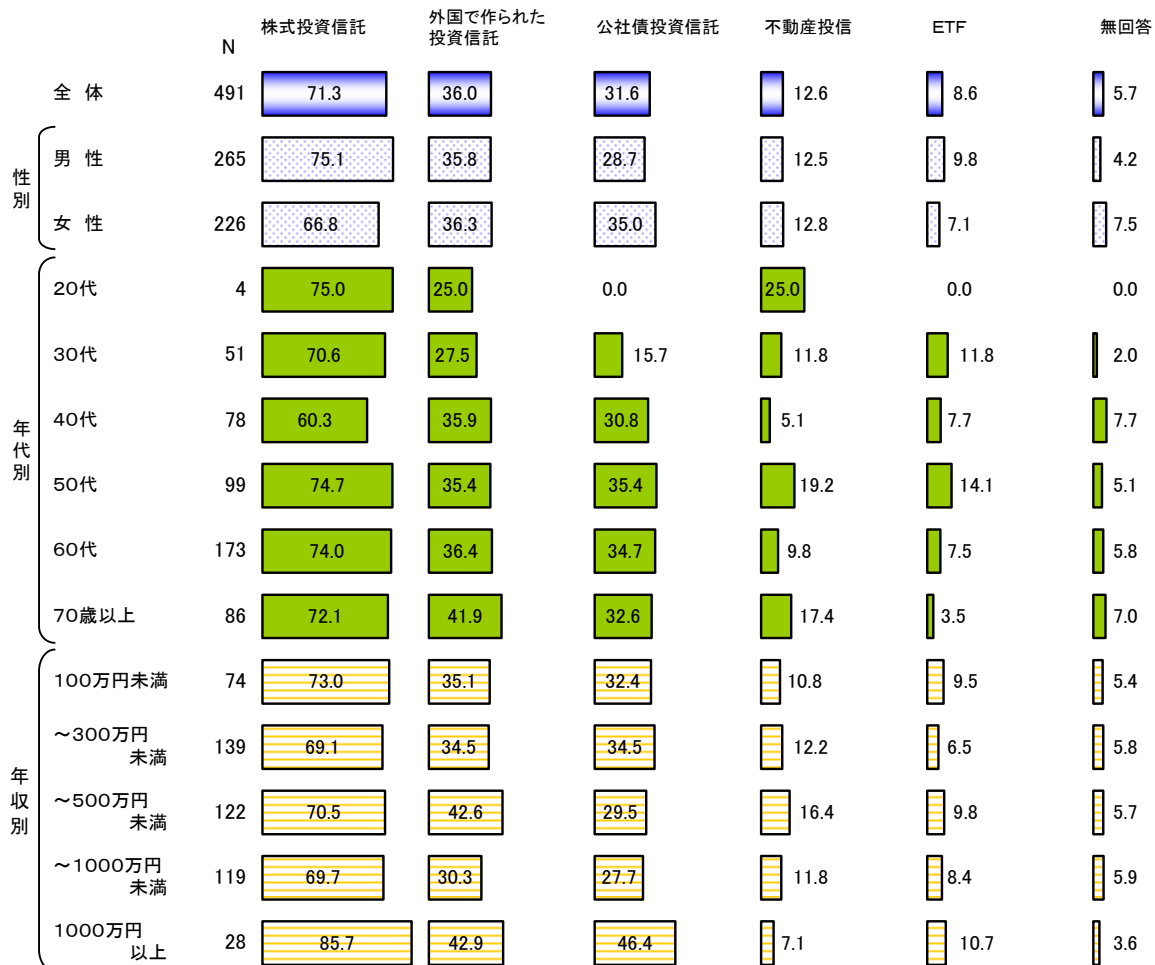
対象者属性別では、性別でみると、男性では「株式投資信託」(75.1%)が、女性よりも高い。

年代別では、40代の「株式投資信託」(60.3%)が他層に比べてやや低い。

年収別では、顕著な差はみられない。

【投資信託の保有種類(重複回答)／基本軸1－現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【参考：平成18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

N	MRF・中期国債MMF・	外国債券ファンド	国内株式ファンド	国内株スフ・債券	国内債券ファンド	外国株式ファンド	不動産投信	ETF	その他左記以外のファンド	外国MMFで作られた	外国MMF投資信託以外	無回答
381	40.2	36.0	35.4	22.3	21.5	19.4	10.8	3.9	3.1	5.0	4.2	5.2

【投資信託の保有種類(重複回答)・種類別回答者数と平均保有数—現在保有層ベース】

※無回答は除く。

(N)

	N	株式投資信託	外国で作られた投資信託	公社債投資信託	不動産投信	ETF	平均保有数(種類)
平成21年	491	350	177	155	62	42	1.60

【参考：平成18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

(N)

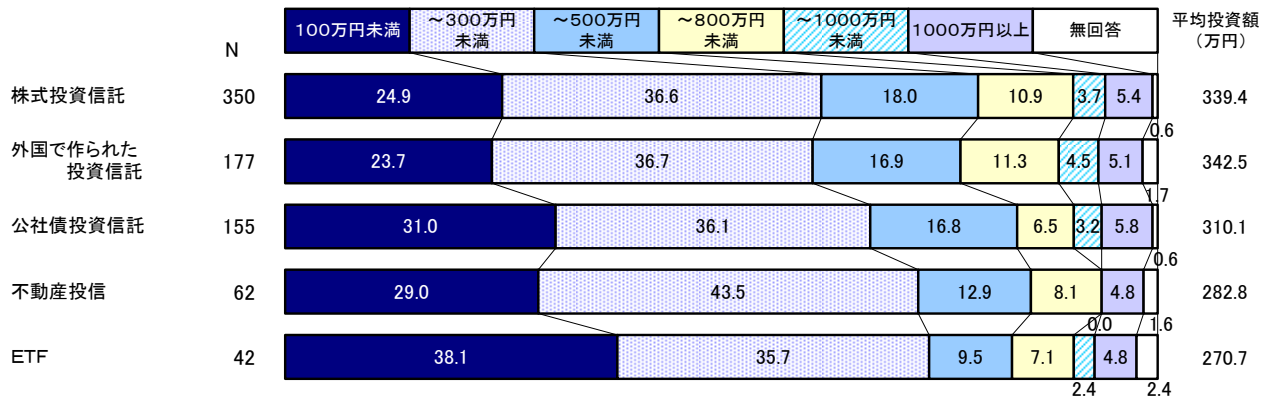
N	MRF・中期国債MMF・	外国債券ファンド	国内株式ファンド	国内株スフ・債券	国内債券ファンド	外国株式ファンド	不動産投信	ETF	その他左記以外のファンド	外国MMFで作られた	外国MMF投資信託以外	(平均保有数種類)
361	153	137	135	85	82	74	41	15	12	19	16	2.13

(2) 投資信託の投資額〔問5②〕

現在保有層における投資信託保有種類別の投資額をみると、平均は「外国で作られた投資信託」が342.5万円、「株式投資信託」が339.4万円であり、この2つが比較的高い。以下、「公社債投資信託」（310.1万円）、「不動産投信」（282.8万円）、「ETF」（270.7万円）の順となっている。

なお、これらの投資信託の購入合計額の平均は499万円である。

【投資信託の投資額(単数回答)－現在保有層ベース】



上記投資信託保有者（投資額不明除く）の平均合計投資額（推計）
499万円

【参考：平成18年調査結果】選択肢が変更されている点に注意が必要

	N	平均投資額(万円)
MRF・MMFまたは中期国債ファンド	153	181
国内債券ファンド	82	273
外国債券ファンド	137	376
国内株式・債券バランスファンド	85	304
国内株式ファンド	135	267
外国株式ファンド	74	289
ETF	15	207
不動産投信	41	309
その他(上記以外)	12	292
外国で作られたMMF	19	139
外国MMF以外の投信	16	334

平均合計投資額（推計）
546万円

(3) 株式投資信託の保有種類（現在保有層のうち株式投資信託保有者）〔問6①〕

株式投資信託保有層が保有している株式投資信託の種類をみると、「国内株式に主に投資する株式投資信託」が58.6%で最も高く、次いで「外国債券に主に投資する株式投資信託」(40.6%)が高い。「外国株式に主に投資する株式投資信託」(31.1%)と「様々な資産に投資する株式投資信託」(28.9%)はほぼ同率で並んでいるが、「不動産投信に主に投資する株式投資信託」は11.1%と低い。

対象者属性別では、性別でみると、「外国債券に主に投資する株式投資信託」保有率は男性(36.7%)より女性(45.7%)の方がやや高い。

年代別では、「外国債券に主に投資する株式投資信託」は30代、40代に比べ、50代以上の方が保有率が高い。

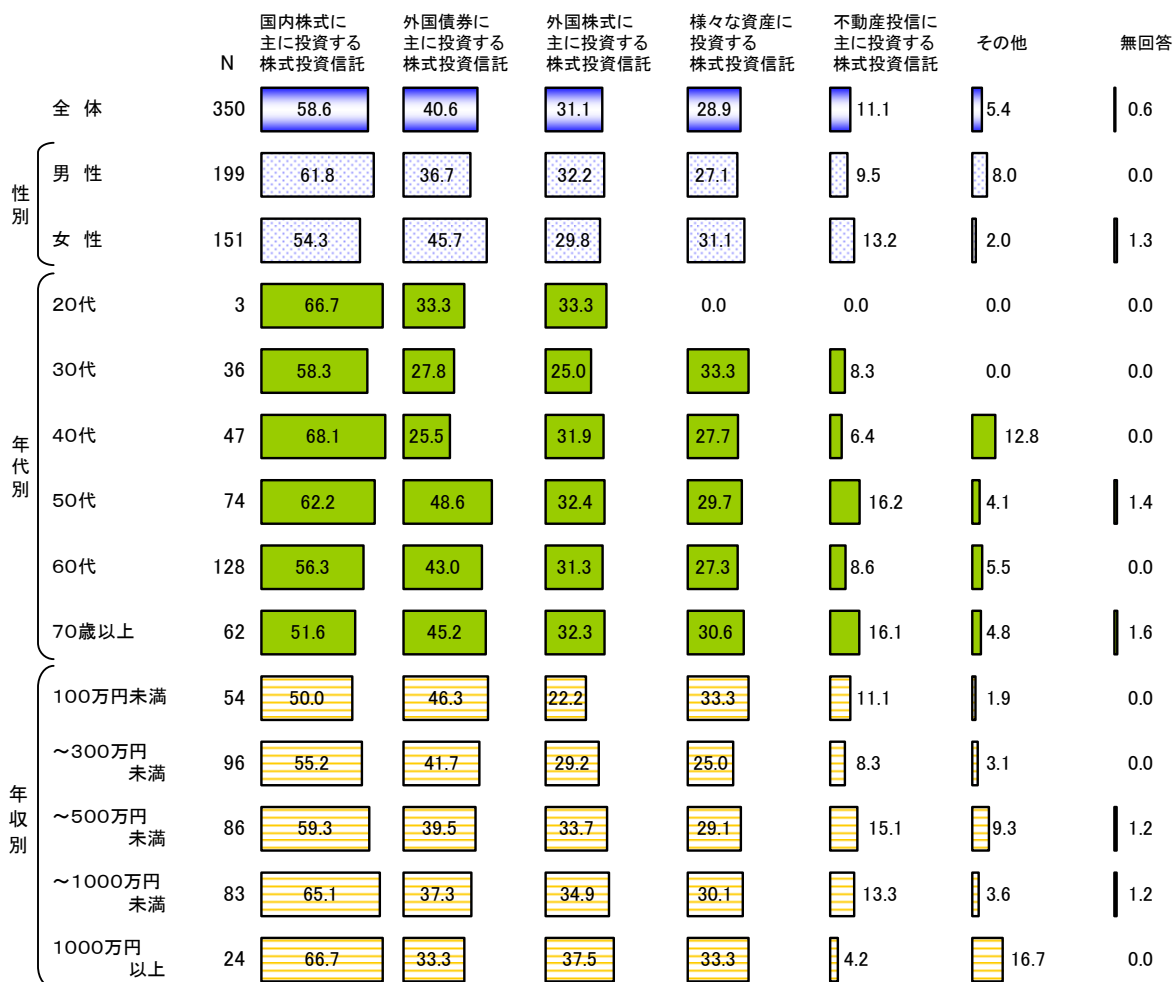
年収別では、「国内株式に主に投資する株式投資信託」や「外国株式に主に投資する株式投資信託」は年収が高いほど、「外国債券に主に投資する株式投資信託」は年収が低いほど、保有率がやや高くなる傾向がみられる。

なお、投資信託保有種類数(重複回答分)を回答サンプルで除して求めた平均保有数は、1.76種類となっている。

【株式投資信託の種類別保有率(重複回答)／基本軸1

—現在保有層・株式投資信託保有者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【株式投資信託の保有種類(重複回答)・種類別回答者数と平均保有数

ー現在保有層・株式投資信託保有者ベース】

※無回答は除く。

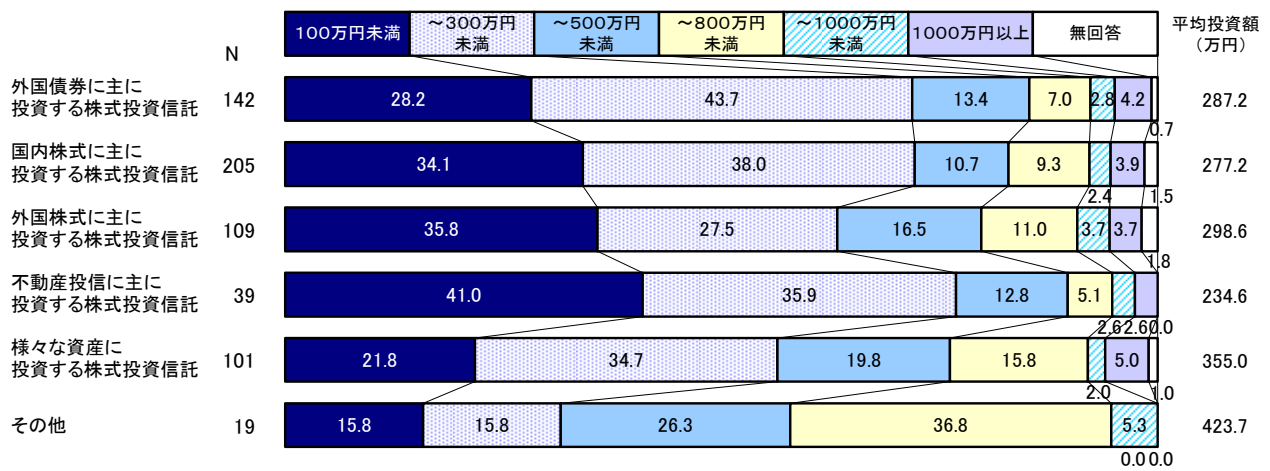
	N	国内株式に 主に投資する 株式投資信託	外国債券に 主に投資する 株式投資信託	外国株式に 主に投資する 株式投資信託	様々な資産に 投資する 株式投資信託	不動産投信に 主に投資する 株式投資信託	その他	平均保有数 (種類)
平成21年	350	205	142	109	101	39	19	1.76

(4) 株式投資信託の投資額（現在保有層のうち株式投資信託保有者）〔問6②〕

株式投資信託の種類別に保有層の投資額をみると、「その他」を除いて平均が最も高いのは「様々な資産に投資する株式投資信託」の355.0万円である。以下、「外国株式に主に投資する株式投資信託」298.6万円、「外国債券に主に投資する株式投資信託」287.2万円、「国内株式に主に投資する株式投資信託」277.2万円の順となっている。「不動産投信に主に投資する株式投資信託」は平均234.6万円でも最も低い。

【株式投資信託の保有種類別（単数回答）－現在保有層・株式投資信託者ベース】

※N数（サンプル数）が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



5. 投資信託購入状況(現在保有層・保有経験層)

(1) 投資信託購入のきっかけ〔問9〕

投資信託を購入したきっかけは、「証券会社や銀行等の人から勧められて」が66.6%で最も高く、他のきっかけを大きく上回っている。以下、「家族や友人から良いという話を聞いて」(16.3%)、「商品広告等を見て良さそうだったので」(15.5%)、「新聞や雑誌記事で良さそうだったので」(14.3%)、「電話案内やDMが送られてきたので」(11.1%)が10%台で並んでいる。

平成18年の調査結果と比べても、大きな変化がみられる項目はない。

対象者属性別では、性別でみると、「家族や友人から良いという話を聞いて」は男性が11.3%、女性は22.0%となっており、女性の方が高い。

年代別では、「証券会社や銀行等の人から勧められて」は年代が上がるにつれて高くなるが、「インターネットで良さそうだった」とは若年層ほど高く、「家族や友人から良いという話を聞いて」は30代で高い。

なお、20代は、N数(サンプル数)が少ないため、コメントを割愛している。

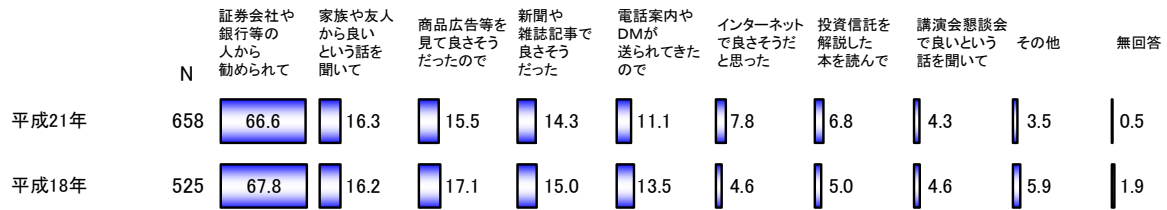
年収別では、「家族や友人から良いという話を聞いて」は年収が低い層ほどやや高い。「電話案内やDMが送られてきたので」は年収が100万円未満と低い層では3.0%と低いが1000万円以上の高い層では17.6%と高い。

投資信託保有状況別では、「証券会社や銀行等の人から勧められて」は現在保有層が69.0%と保有経験層の59.3%より高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層の間には大きな差はみられない。

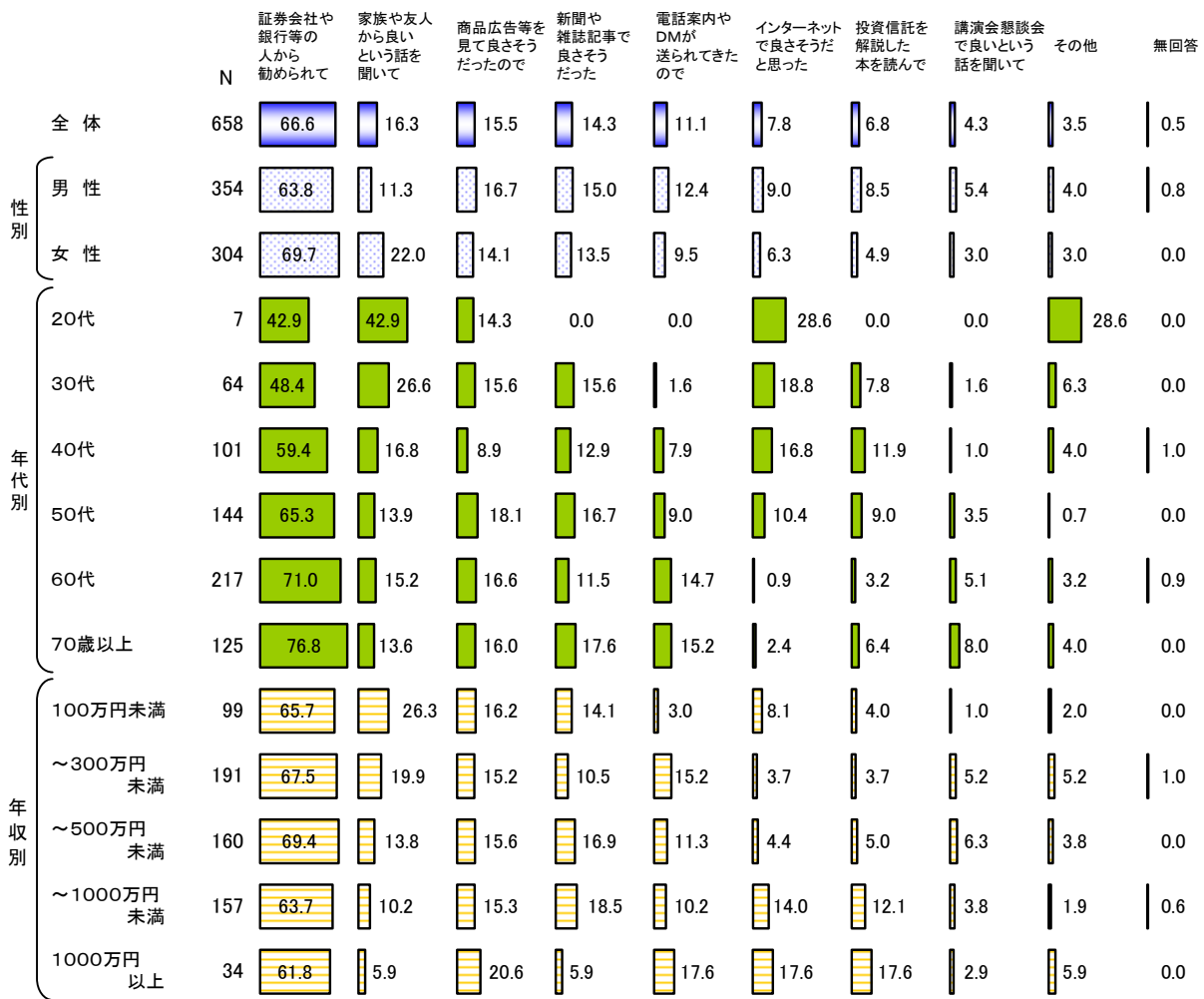
居住地別では、「証券会社や銀行等の人から勧められて」は中国・四国・九州で78.7%と他地域に比べて高い。「新聞や雑誌記事で良さそうだったので」は関東以北の地域の方が他地域よりもやや高い。

【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



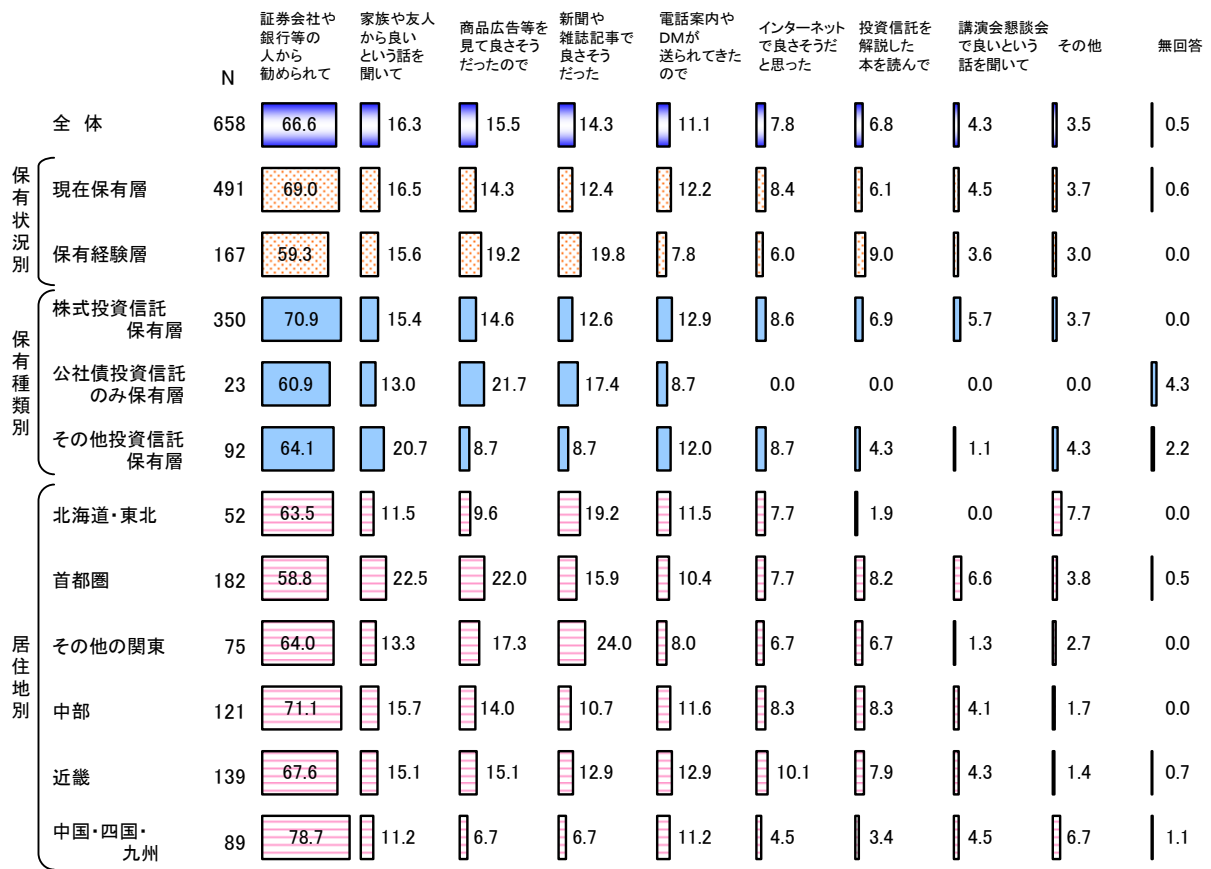
【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託購入のきっかけ(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 投資信託の購入金融機関〔問10〕

購入の際の金融機関は、「証券会社」が55.0%で最も高く、次いで「銀行等の金融機関」が46.2%で、この2つが主なルートとなっている。「投資信託会社」(8.8%)や「ゆうちょ銀行」(7.0%)は10%以下と低い。

平成18年の調査結果と比べると、「証券会社」利用率が11.1ポイント低下したのに対し、「銀行等の金融機関」は6.2ポイント高くなり、両者の差が縮まった。また、「ゆうちょ銀行(郵便局)」は3.8ポイント高くなり、若干伸びがみられる。

対象者属性別では、性別でみると、いずれの利用率とも大きな差はみられない。

年代別では、30代は他の年代に比べ「証券会社」(34.4%)が低く、「ゆうちょ銀行」(15.6%)の利用率がやや高い。

年収別では、1000万円以上の高年収層はそれ以下の層に比べ、「証券会社」利用率が82.4%と高いが、「銀行等の金融機関」は29.4%と低い。

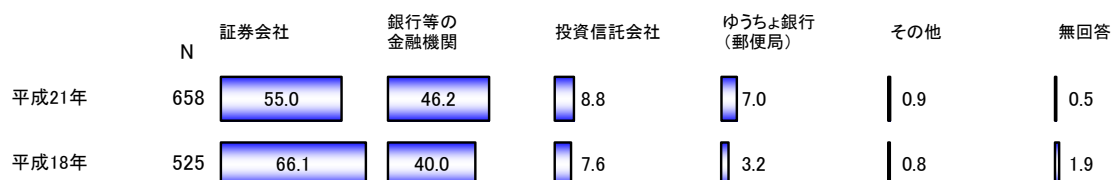
投資信託保有状況別にみると、現在保有層では「証券会社」(51.5%)と、「銀行等の金融機関」(53.0%)の利用率はほぼ同程度であるが、保有経験層では「証券会社」(65.3%)の方が圧倒的に高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層に比べ「銀行等の金融機関」利用率が高い。

なお、公社債投資信託のみ保有層は、N数(サンプル数)が少ないため、コメントを割愛している。

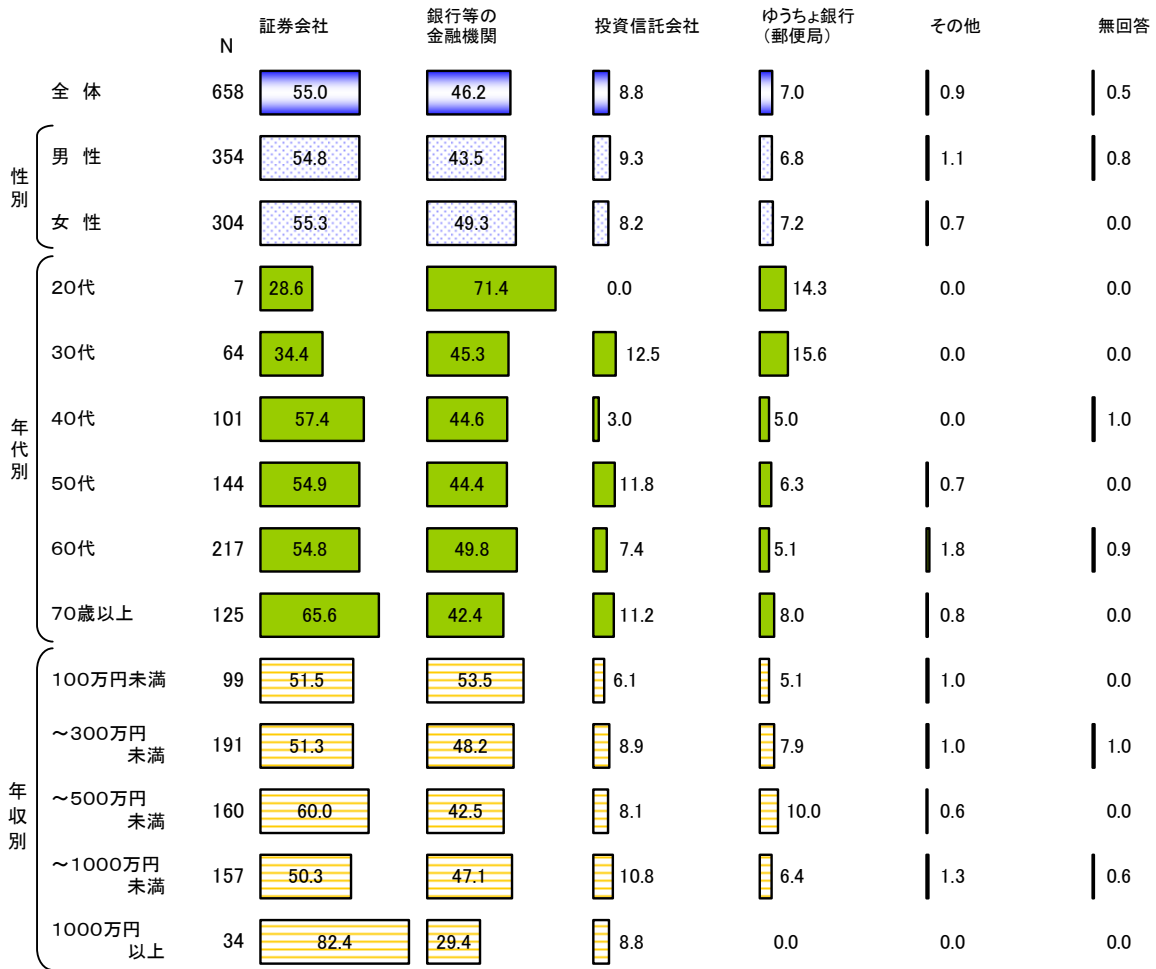
居住地別にみると、首都圏や中国・四国・九州では「証券会社」が60%台と高く、「銀行等の金融機関」と比べても利用率が高い。

【投資信託の購入金融機関(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



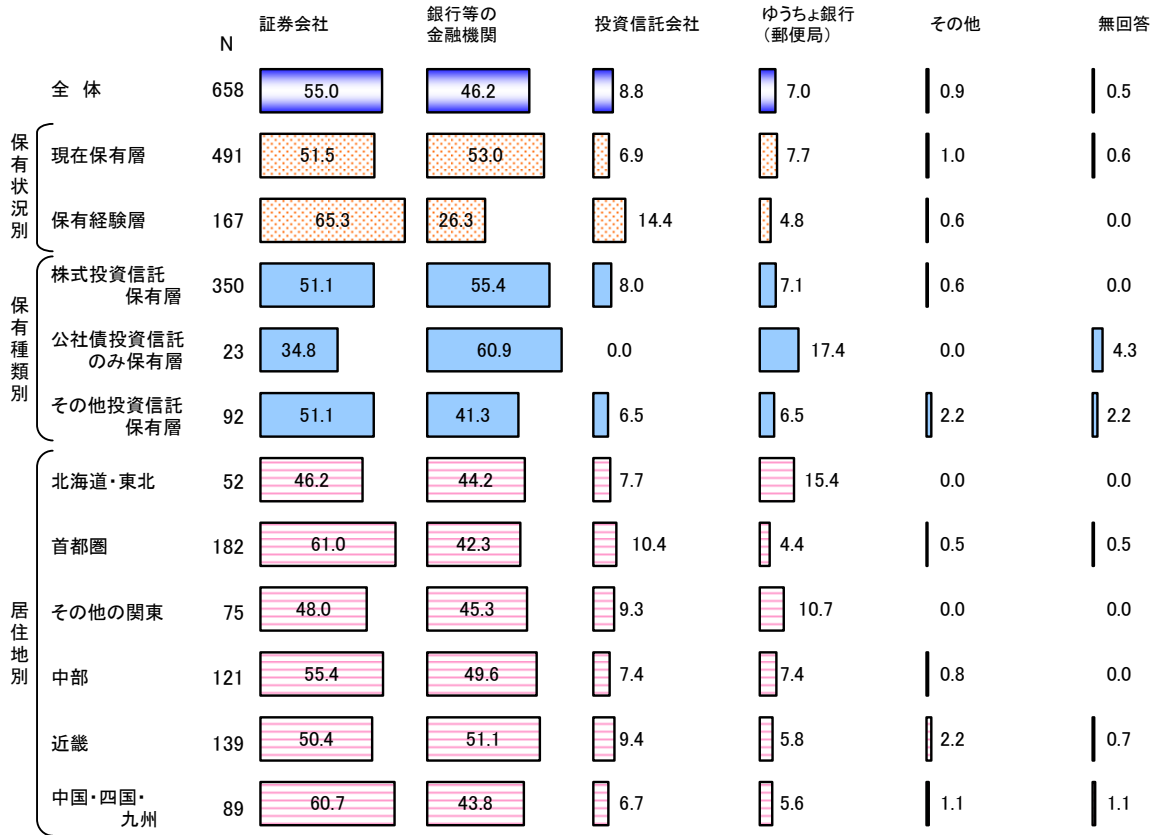
【投資信託の購入金融機関(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入金融機関(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(3) 販売員の説明・勧誘方法〔問 11、問 11-1、問 11-2〕

① 販売員の説明・勧誘方法への満足状況

投資信託を購入した際の販売員の説明・勧誘の仕方等への満足状況は、「とても満足した」が 2.9%、「まあ満足した」が 43.9%であり、これらを合わせた“満足層”は 46.8%を占める。一方、「あまり満足しなかった」(7.3%)と「まったく満足しなかった」(1.5%)を合わせた“不満層”は 8.8%に留まる。なお、「とても満足した」から「まったく満足しなかった」まで、5点から1点の得点を与えて平均値を算出したところ、3.4点となった。

平成 18 年の調査結果と比べると、“満足層”比率は 6.5ポイント低くなった。

対象者属性別では、性別でみると、“満足層”比率は女性(50.0%)の方が男性(44.1%)よりやや高い。

年代別では、“満足層”比率は若年層ほどやや高い傾向がみられる。なお、30代、40代では「販売員と接触していない」が 10%強と高いが、これはインターネット利用率の高さが影響していると推測される(p.139~140「インターネットによる金融取引経験」参照)。

年収別は、(100万円以上)300万円未満の層の“満足層”比率が 50.3%と最も高いが、年収が上がるにつれて減少する傾向がみられる。

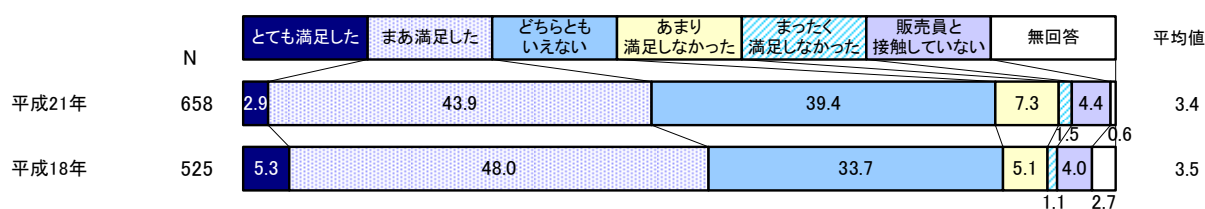
投資信託保有状況別では、“満足層”比率は現在保有層が 51.2%と保有経験層の 34.1%を大きく上回っている。

投資信託保有種類別では、各層との間に顕著な差はみられない。

居住地別にみると、“満足層”比率はその他の関東が 38.7%で最も低い、中国・四国・九州、近畿、北海道・東北では約 50%以上と他地域に比べてやや高い。

【販売員の説明・勧誘に対する満足状況(単数回答)／時系列

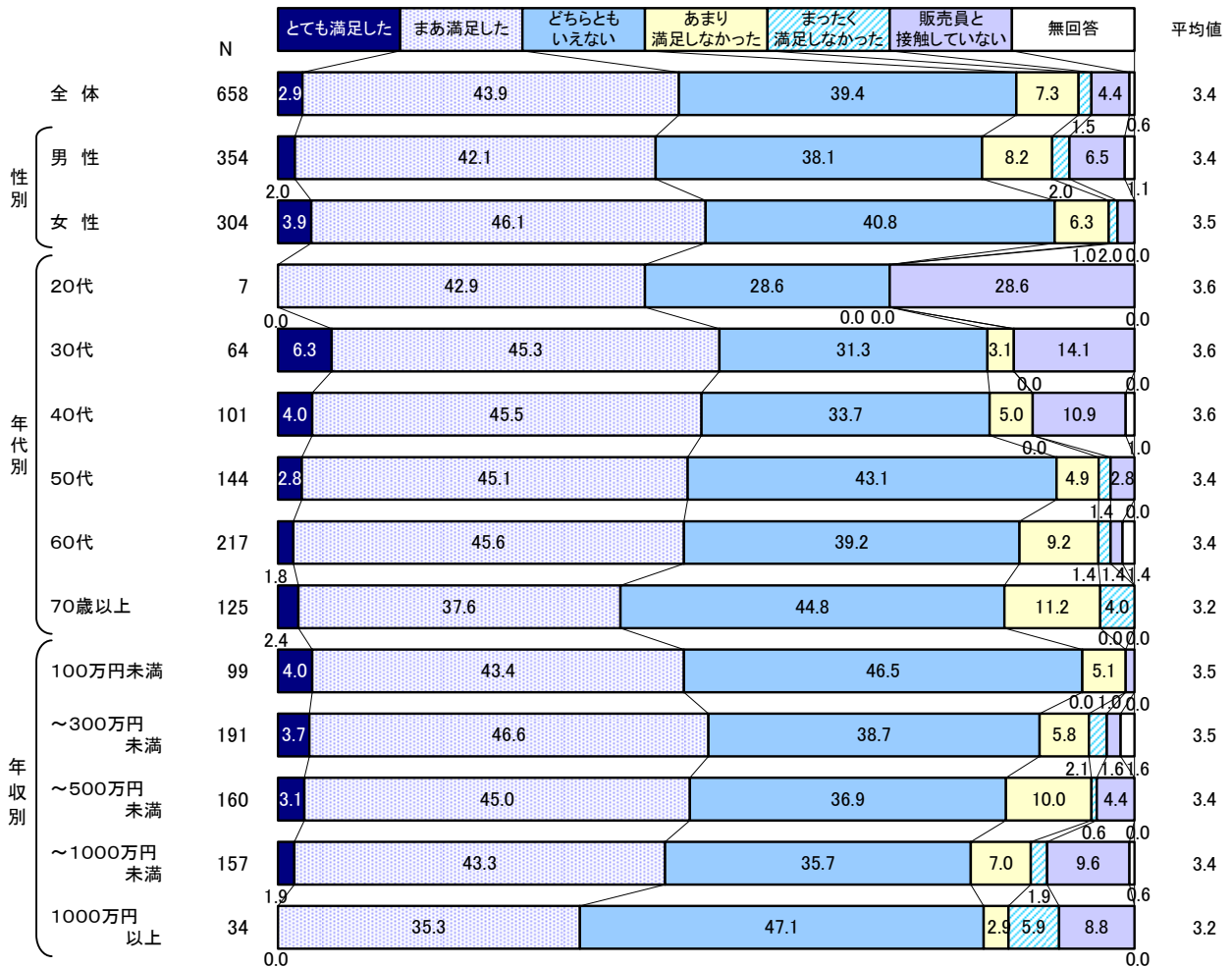
－現在保有層・保有経験層ベース】



【販売員の説明・勧誘に対する満足状況(単数回答)／基本軸1

－現在保有層・保有経験層ベース】

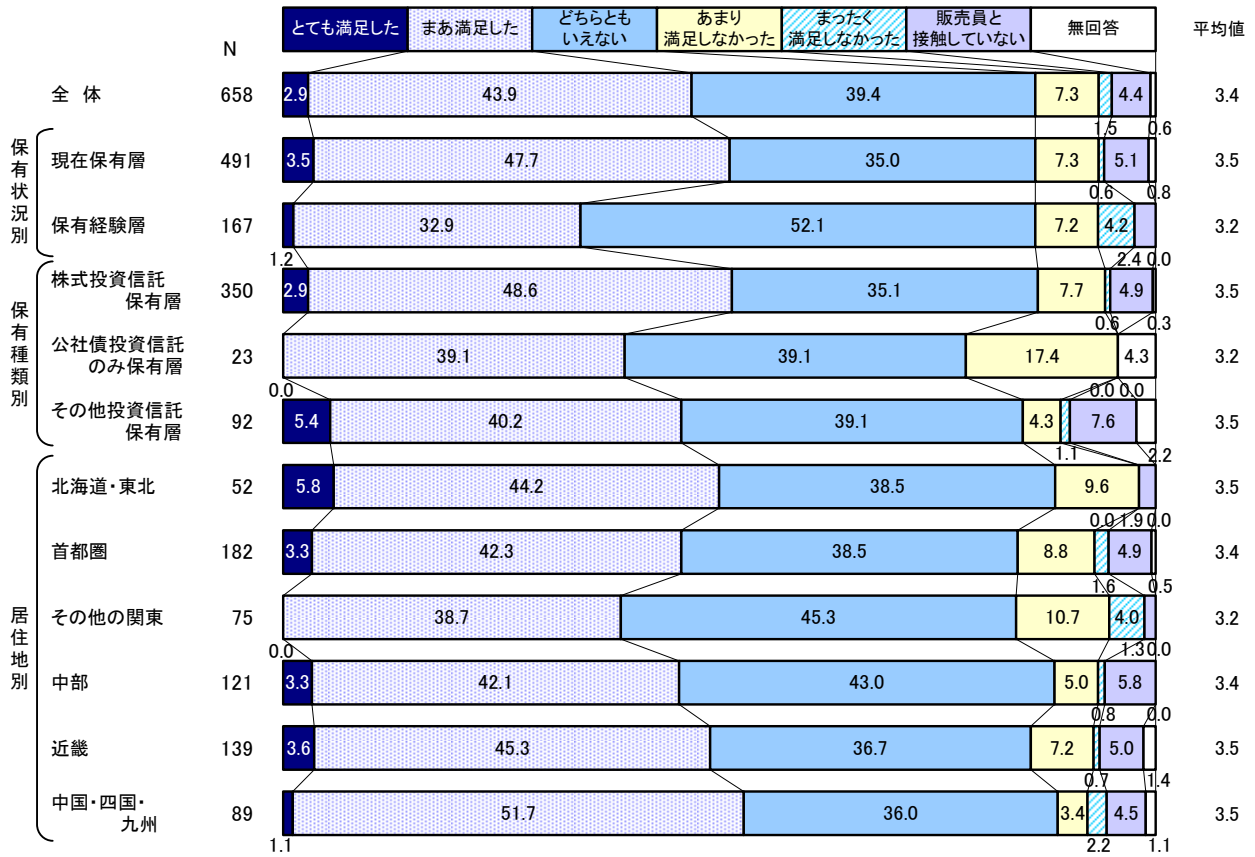
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【販売員の説明・勧誘に対する満足状況(単数回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



② 販売員の説明・勧誘方法への満足理由(説明・勧誘方法満足者)

販売員の説明・勧誘方法に満足した人に対し、その理由を尋ねたところ、「商品のリスクもきちんと説明した」が66.9%で最も高い。次いで、「商品の魅力をわかりやすく説明した」が45.1%と高く、「質問にきちんと答えてくれた」(27.6%)と「自分のニーズにあった商品を勧めてくれた」(21.8%)がほぼ同レベルで続いている。

平成18年の調査結果と比べると、「商品のリスクもきちんと説明した」が10.1ポイント高くなっている。

対象者属性別では、性別でみても大きな差はみられない。

年代別にみると、70歳以上では「質問にきちんと答えてくれた」(36.0%)が他の年代に比べてやや高い。

年収別では、100万円未満の低年収層は「商品の魅力をわかりやすく説明した」(61.7%)が他の層より高く、「商品のリスクもきちんと説明した」(57.4%)を上回り、この層の満足理由のトップとなっている。

投資信託保有状況別では、「商品の魅力をわかりやすく説明した」は、現在保有層で49.0%と保有経験層の28.1%を大きく上回っている。

投資信託保有種類別では、「商品の魅力をわかりやすく説明した」は、株式投資信託保有層よりその他投資信託保有層の方が高いが、「質問にきちんと答えてくれた」は株式投資信託保有層の方が高い。

なお、公社債投資信託のみ保有層は、N数(サンプル数)が少ないため、コメントを割愛している。

【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／時系列

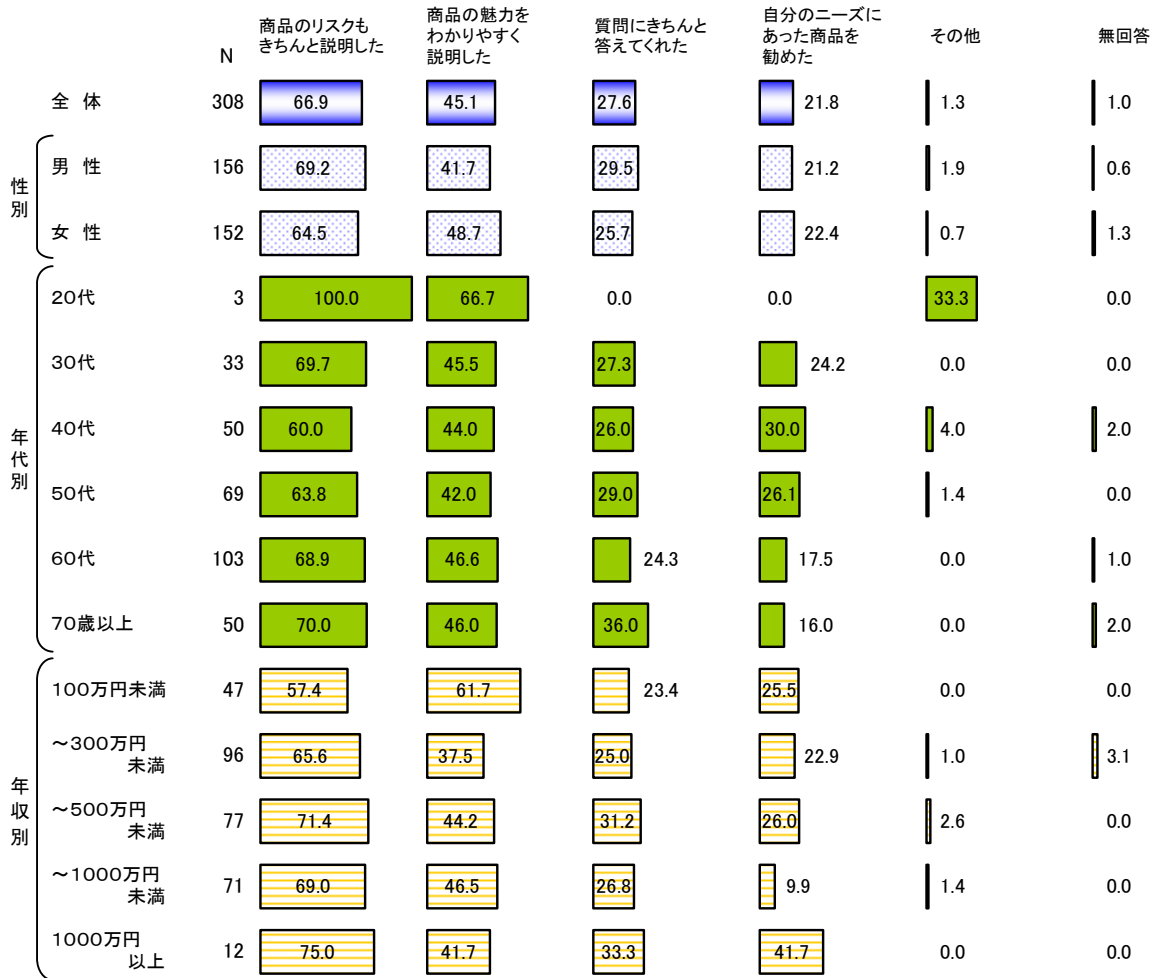
－現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース】

	N	商品のリスクも きちんと説明した	商品の魅力を わかりやすく 説明した	質問にきちんと 答えてくれた	自分のニーズに あった商品を 勧めた	その他	無回答
平成21年	308	66.9	45.1	27.6	21.8	1.3	1.0
平成18年	280	56.8	46.8	27.5	26.1	1.4	0.7

【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／基本軸1

ー現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース】

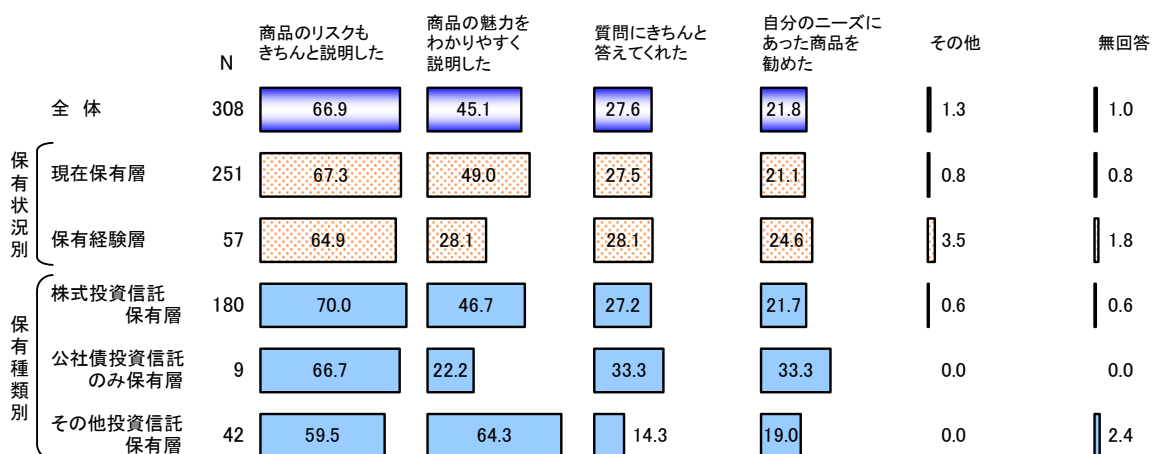
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【販売員の説明・勧誘への満足理由(重複回答)／基本軸2

ー現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法満足者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

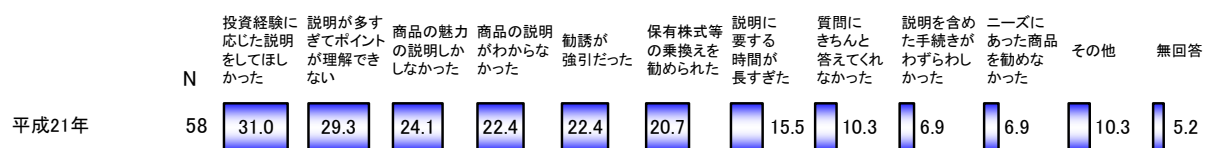


③ 販売員の説明・勧誘方法への不満理由(説明・勧誘方法不満者)

販売員の説明・勧誘方法に満足しなかった人に対し、その理由を尋ねたところ、「投資経験に応じた説明をしてほしかった」(31.0%)と「説明が多すぎて重要ポイントが理解できなかった」(29.3%)がほぼ同程度で最も高く、次いで「商品の魅力の説明しかなかった」(24.1%)、「商品の説明がほとんどわからなかった」「勧誘が強引だった」(ともに22.4%)、「保有株式等の乗換えを勧められた」(20.7%)がほぼ同程度で並んでいる。

【販売員の説明・勧誘への不満理由(重複回答)／時系列

ー現在保有層・保有経験層のうち説明・勧誘方法不満者ベース



*今回より回答数が(2つまで)から(いくつでも)に変更されている

*今回より下記の選択肢が追加されている

「説明に要する時間が長すぎた」

「説明が多すぎてポイントが理解できない」

「投資経験に応じた説明をしてほしかった」

「説明を含めた手続きがわずらわしかった」

【参考：平成18年調査結果】

N	商品の魅力の説明しかなかった	商品の説明がわからなかった	勧誘が強引だった	保有株式等の乗換えを勧められた	ニーズにあった商品を勧めなかった	質問にきちんと答えてくれなかった	その他	無回答
33	45.5	36.4	15.2	15.2	12.1	6.1	18.2	0.0

(4) 投資信託購入の決め手〔問 12〕

投資信託を購入する決め手となったのは、「値上がり期待」が 42.1%で最も高い。次いで、「分配の頻度・実績」(36.9%)、「過去の運用実績」(32.2%)、「安全性の高さ」(30.1%)が 30%台で続き、これら以外は 10%台以下と低い。

平成 18 年の調査結果と比べると、「分配の頻度・実績」は 5.5 ポイント高くなったが、「安全性の高さ」は 8.4 ポイント低下し、「換金のしやすさ」も 9.3 ポイント低くなった。

対象者属性別では、性別でみると、「分配の頻度・実績」は女性が 43.8%と、男性の 31.1%より高い。

年代別では、顕著な差はみられない。

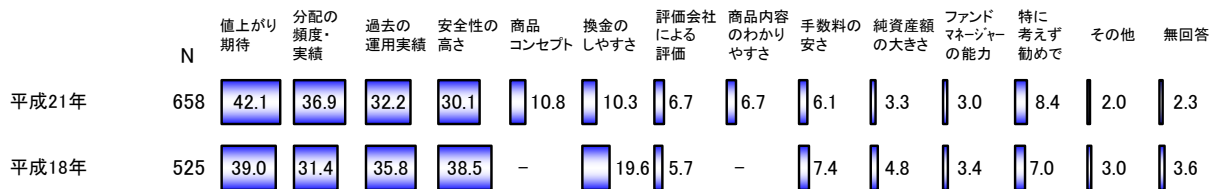
年収別では、「商品コンセプト」が決め手になった率は、年収が高いほどやや高くなる傾向がみられる。

投資信託保有状況別にみると、「分配の頻度・実績」は、現在保有層が 43.4%で、保有経験層ではその半分以下の 18.0%と低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその「値上がり期待」「分配の頻度・実績」「過去の運用実績」「安全性の高さ」など多くの項目で高く、多様な点を考慮していることが推測される。

なお、公社債投資信託のみ保有層は、N 数（サンプル数）が少ないため、コメントを割愛している。

【投資信託購入の決め手(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



*今回より下記の選択肢が追加されている

「商品内容のわかりやすさ」「商品コンセプト」

【投資信託購入の決め手(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	値上がり期待	分配の頻度・実績	過去の運用実績	安全性の高さ	商品コンセプト	換金のしやすさ	評価会社による評価	商品内容のわかりやすさ	手数料の安さ	純資産額の大きさ	ファンドマネージャーの能力	特に考えず勤めで	その他	無回答
全体	658	42.1	36.9	32.2	30.1	10.8	10.3	6.7	6.7	6.1	3.3	3.0	8.4	2.0	2.3
性別															
男性	354	42.9	31.1	33.9	27.4	13.3	10.7	7.1	8.2	8.2	3.1	4.0	6.5	2.3	3.1
女性	304	41.1	43.8	30.3	33.2	7.9	9.9	6.3	4.9	3.6	3.6	2.0	10.5	1.6	1.3
年代別															
20代	7	28.6	14.3	14.3	28.6	14.3	28.6	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0
30代	64	48.4	28.1	28.1	23.4	9.4	10.9	4.7	4.7	15.6	3.1	6.3	14.1	3.1	1.6
40代	101	40.6	34.7	29.7	36.6	15.8	5.9	8.9	8.9	9.9	5.9	2.0	5.9	4.0	2.0
50代	144	42.4	42.4	30.6	28.5	13.9	5.6	6.3	7.6	6.3	5.6	3.5	8.3	2.1	2.1
60代	217	40.6	36.9	37.8	30.4	10.1	9.7	7.4	3.7	4.1	1.8	2.8	7.4	0.9	2.8
70歳以上	125	43.2	38.4	29.6	29.6	4.8	19.2	5.6	8.8	0.8	1.6	2.4	8.8	1.6	2.4
年取別															
100万円未満	99	42.4	45.5	30.3	23.2	5.1	9.1	5.1	5.1	4.0	6.1	2.0	11.1	2.0	0.0
～300万円未満	191	39.3	38.7	28.8	34.6	7.9	11.0	5.2	5.8	3.1	2.6	2.1	8.9	1.6	3.7
～500万円未満	160	39.4	37.5	37.5	28.8	13.8	13.1	8.8	5.6	5.0	0.6	5.0	8.1	1.9	1.9
～1000万円未満	157	45.2	30.6	34.4	29.3	13.4	8.9	4.5	10.2	11.5	5.1	3.8	7.0	2.5	2.5
1000万円以上	34	52.9	41.2	32.4	32.4	20.6	8.8	17.6	8.8	8.8	2.9	0.0	2.9	0.0	2.9

【投資信託購入の決め手(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

	N	値上がり期待	分配の頻度・実績	過去の運用実績	安全性の高さ	商品コンセプト	換金のしやすさ	評価会社による評価	商品内容のわかりやすさ	手数料の安さ	純資産額の大きさ	ファンドマネージャーの能力	特に考えず勤めで	その他	無回答
全体	658	42.1	36.9	32.2	30.1	10.8	10.3	6.7	6.7	6.1	3.3	3.0	8.4	2.0	2.3
保有状況別															
現在保有層	491	41.1	43.4	32.4	29.5	10.8	8.4	7.5	6.5	6.3	3.9	3.5	7.5	2.0	2.2
保有経験層	167	44.9	18.0	31.7	31.7	10.8	16.2	4.2	7.2	5.4	1.8	1.8	10.8	1.8	2.4
保有種類別															
株式投資信託保有層	350	44.9	44.0	34.0	28.9	12.9	6.9	7.1	6.0	6.0	4.3	4.0	7.7	2.0	1.7
公社債投資信託のみ保有層	23	21.7	21.7	13.0	60.9	0.0	8.7	0.0	13.0	4.3	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3
その他投資信託保有層	92	35.9	44.6	25.0	23.9	5.4	12.0	9.8	4.3	8.7	3.3	2.2	8.7	2.2	3.3

(5) 投資信託の購入資金〔問8〕

投資信託の購入資金は、「定期性の預貯金等から」が42.2%で最も高く、次いで「月々の収入から」(28.4%)と「退職金・相続等の臨時収入から」(24.2%)がほぼ同程度で続いている。

平成18年の調査結果と比べると、「退職金・相続等の臨時収入から」が7.2ポイント高くなったが、「ボーナスから」は6.9ポイント低くなった。

対象者属性別では、性別でみると、女性は「定期性の預貯金等から」が48.7%で、男性の36.7%より高いが、「退職金・相続等の臨時収入から」は女性で19.7%と、男性の28.0%よりも低い。

年代別では、若年層ほど「月々の収入から」「ボーナスから」からが高く、30代では「月々の収入から」が53.1%で半数を超え、「ボーナスから」(20.3%)も他の年代より高い。60代では「退職金・相続等の臨時収入から」が37.3%と高く、「月々の収入から」(18.0%)を上回っている。また、60代、70歳以上では「株式・債券等売ったお金」「生保・損保の満期・解約金から」「他の投資信託を売ったお金」などがみられ、多様な資金から購入している様子が見える。

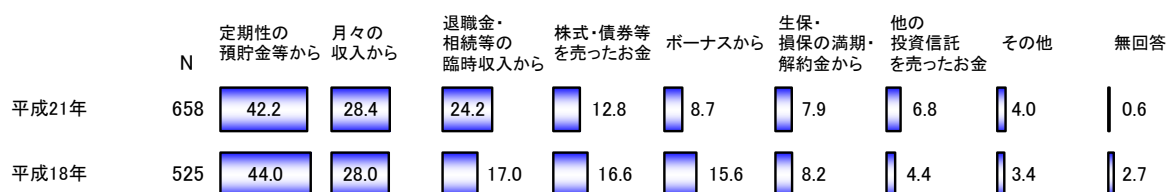
年収別では、あまり目立った傾向はないものの、「月々の収入から」は年収が500万円以上の層でやや高い。「退職金・相続等の臨時収入から」は(300万円以上)500万円未満の層で特に高く、「株式・債券等売ったお金」は1000万円以上の高年収層で23.5%と高い。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層では「定期性の預貯金等から」「退職金・相続等の臨時収入から」が保有経験層より高いが、「月々の収入から」は保有経験層の方が高い。

投資信託保有種類別でみると、「退職金・相続等の臨時収入から」を資金とする率は株式投資信託保有層の方が其他投資信託保有層より高い。

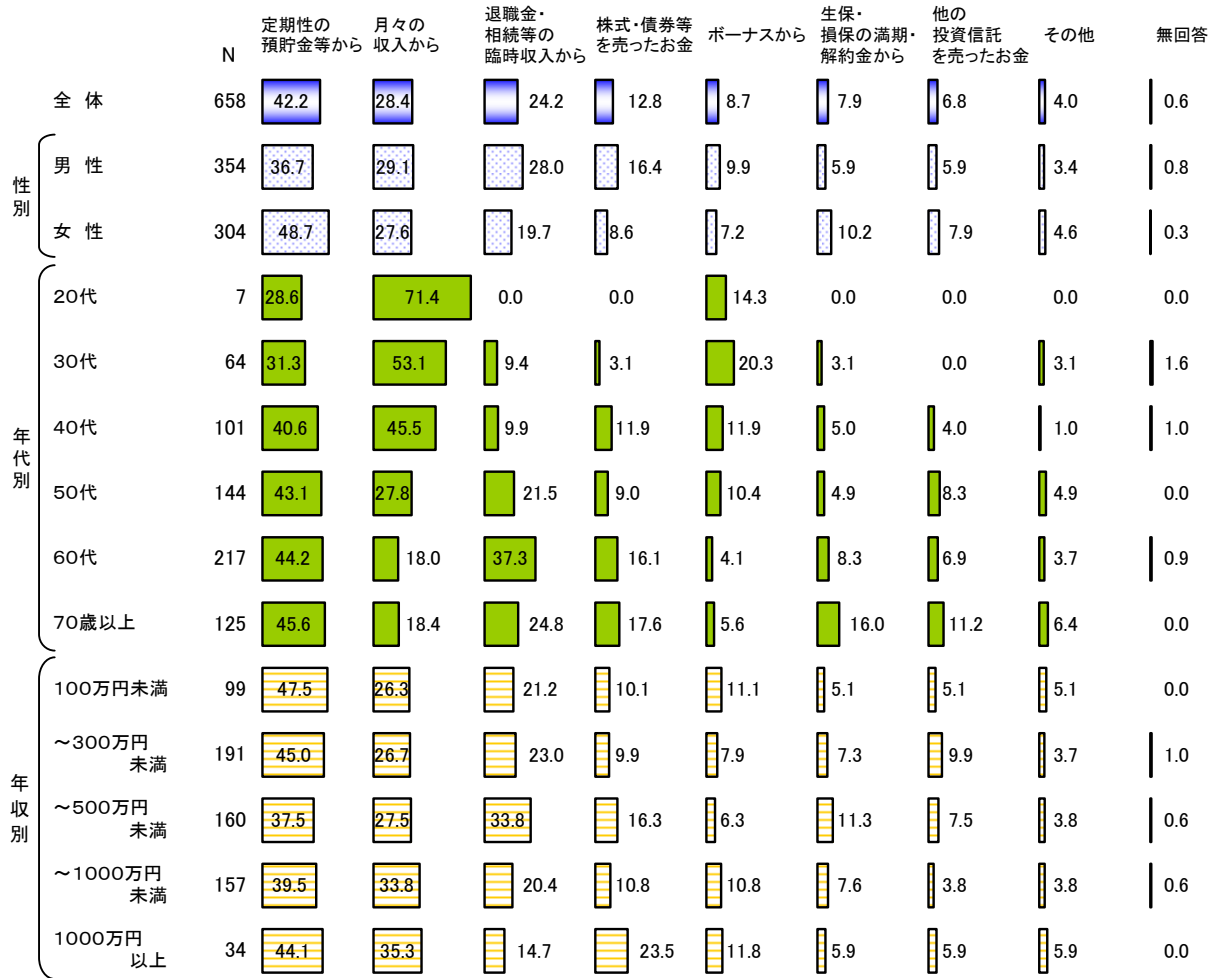
なお、公社債投資信託のみ保有層は、N数(サンプル数)が少ないため、コメントを割愛している。

【投資信託の購入資金(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



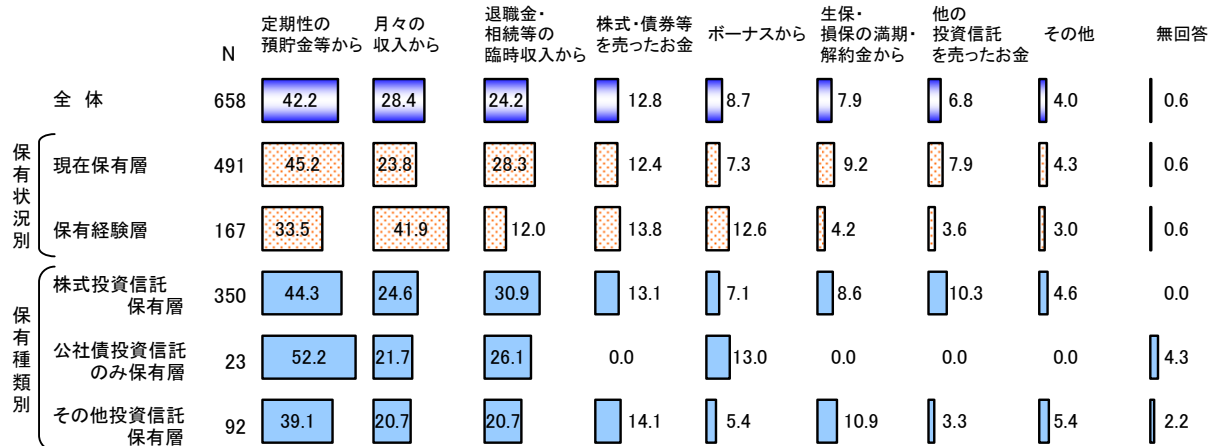
【投資信託の購入資金(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入資金(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(6) 投資信託の購入目的〔問7〕

投資信託を購入した目的は、「老後の生活資金」が40.7%で最も高い。次いで、「資産のリスク分散」(29.0%)が高いが、「特に目的はないが資金を増やしたいため」(30.9%)もほぼ同程度で高い。

平成18年の調査結果と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別で見ると、「資産のリスク分散」は男性が34.2%、女性が23.0%と男性の方が高いが、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は男性が26.0%、女性が36.5%と女性の方が高くなっている。

年代別では、「老後の生活資金」は年代が上がるにつれて高くなり、高年齢層での購入目的のトップとなっている。また、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は若年層ほど高い。

年収別にみると、100万円未満の低年収層では「特に目的はないが資金を増やしたいため」(44.4%)が最も高いが、1000万円以上の高年収層では「老後の生活資金」と「資産のリスク分散」がともに55%以上と高い。

投資信託保有状況別にみると、「老後の生活資金」は現在保有層が46.2%と、保有経験層の24.6%よりも高いが、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は保有経験層が37.1%と現在保有層の28.7%よりも高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層に比べて「老後の生活資金」や「資産のリスク分散」が高いが、「特に目的はないが資金を増やしたいため」は低い。

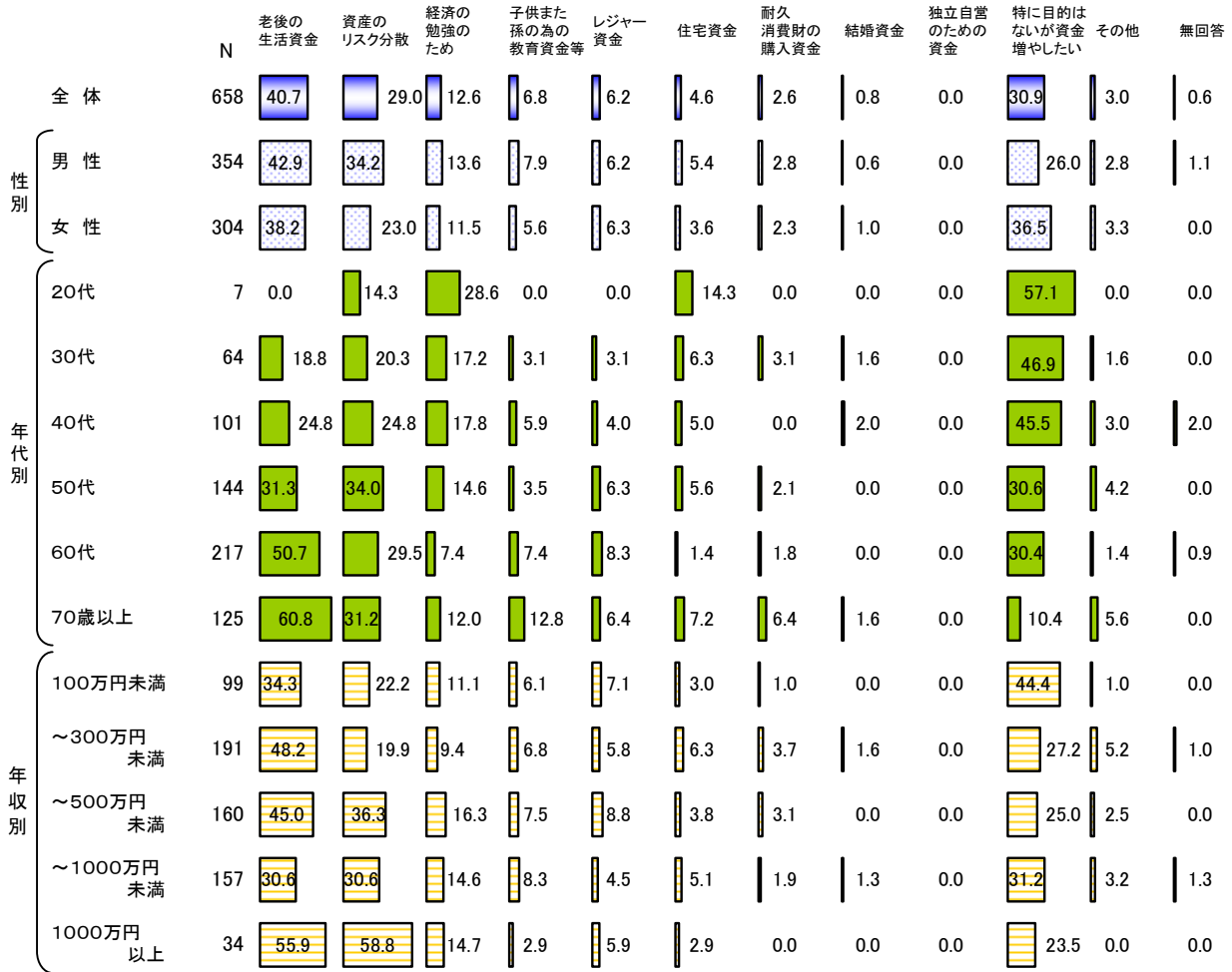
なお、公社債投資信託のみ保有層は、N数(サンプル数)が少ないため、コメントを割愛している。

【投資信託の購入目的(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	老後の生活資金	資産のリスク分散	経済の勉強のため	子供また孫の為に教育資金等	レジャー資金	住宅資金	耐久消費財の購入資金	結婚資金	独立自営のための資金	特に目的はないが資金を増やしたい	その他	無回答
平成21年	658	40.7	29.0	12.6	6.8	6.2	4.6	2.6	0.8	0.0	30.9	3.0	0.6
平成18年	525	37.5	29.3	13.7	8.2	7.8	5.5	1.7	1.5	0.6	26.7	4.8	3.2

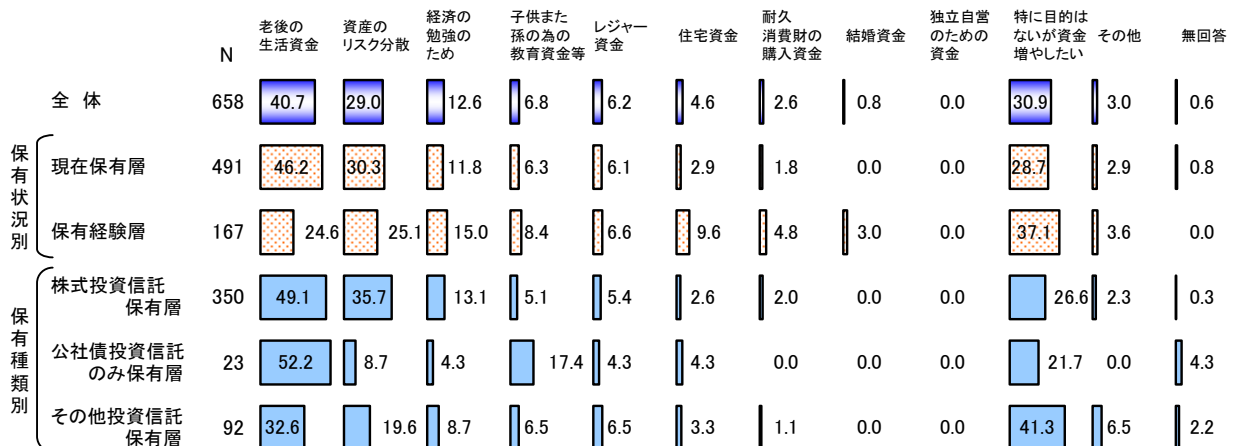
【投資信託の購入目的(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の購入目的(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(7) 投資信託の運用実績評価〔問 15〕

投資信託の運用実績の評価は、「期待した以上だった」が 2.6%、「期待どおりの実績だった」が 11.2%であり、これらを合わせた“期待以上”は 13.8%となっている。一方、「期待していたよりもやや悪かった」は 36.2%、「全く期待はずれだった」は 31.3%である。これらを合わせた“期待以下”は 67.5%と過半数を占め、“期待以上”を大きく上回っている。また、「なんともいえない」も 17.3%みられる。なお、「期待した以上だった」から「まったく期待はずれだった」まで、4点から1点の得点を与えて平均値を算出したところ、1.8点となった。

平成 18 年の調査結果では“期待以上”（36.7%）と“期待以下”（36.8%）が拮抗していたが、今回は“期待以上”が 22.9ポイント低く、“期待以下”は 30.7ポイント高くなった結果、全般的に評価が大きく下がった。

対象者属性別では、性別で見ると、男性の「全く期待はずれだった」は 35.3%、女性は 26.6%で、男性の方が高い。

年代別にみると、“期待以上”は 40 代が 23.8%と最も高く、30 代も 17.2%と比較的高いが、50 代、60 代は 10%未満と低い。40 代では株式投資信託の保有率が他層に比べ 10ポイント以上低いことが評価に影響していると考えられる。

年収別では、“期待以上”は年収が高いほどやや高く、年収が低いほど「なんともいえない」が高い傾向がみられる。

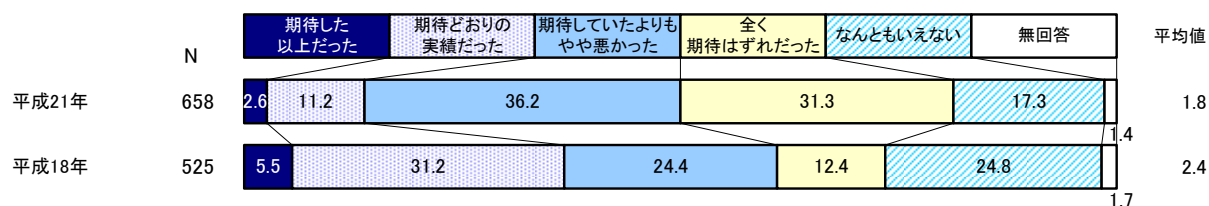
投資信託保有状況別では、“期待以上”は現在保有層が 11.6%、保有経験層が 20.4%と、保有経験層の方がやや高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層よりその他投資信託保有層の方が「なんともいえない」が高い。

なお、公社債投資信託のみ保有層は、N数（サンプル数）が少ないため、コメントを割愛している。

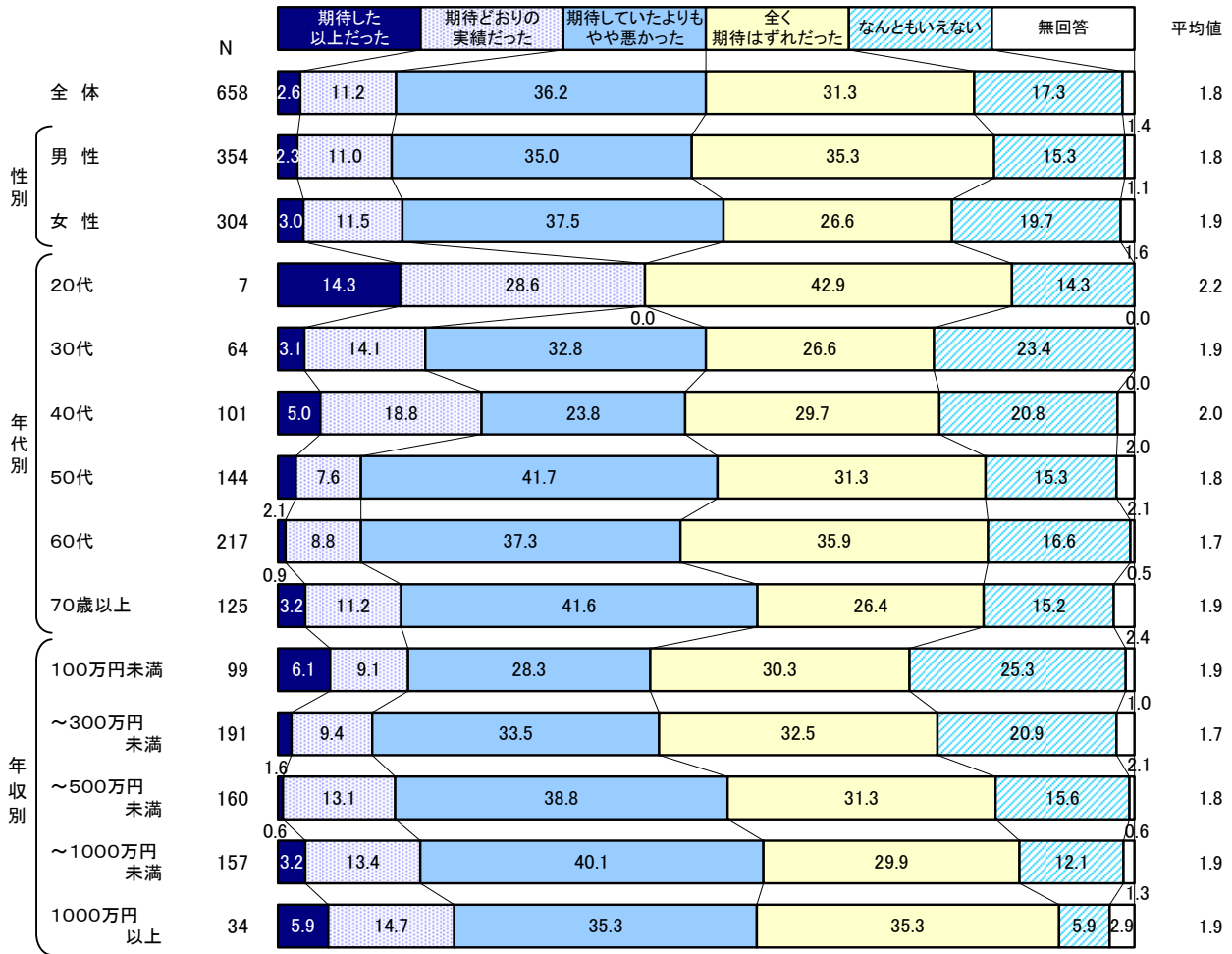
ちなみに、現在保有層ベースで見ても”期待以上”は 40 代で最も高い。これらの層の投資信託の保有種類をみると、40 代では他層に比べて「株式投資信託」と「不動産投資信託」がやや低い。50 代以上で”期待以上”が低く、保有の中心が株式投資信託であることを考えると、評価の分かれ目は株式投資信託や不動産投資信託にあるとも推察される。投資信託の保有種類を期待度別で見ると、その傾向がより明らかに現れていることがわかる。

【投資信託の運用実績評価(単数回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



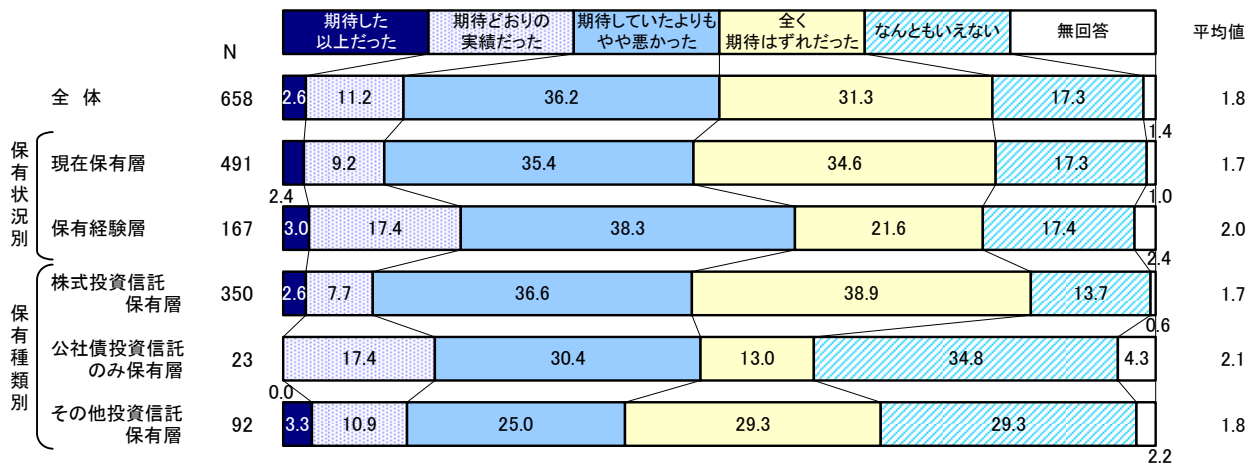
【投資信託の運用実績評価(単数回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



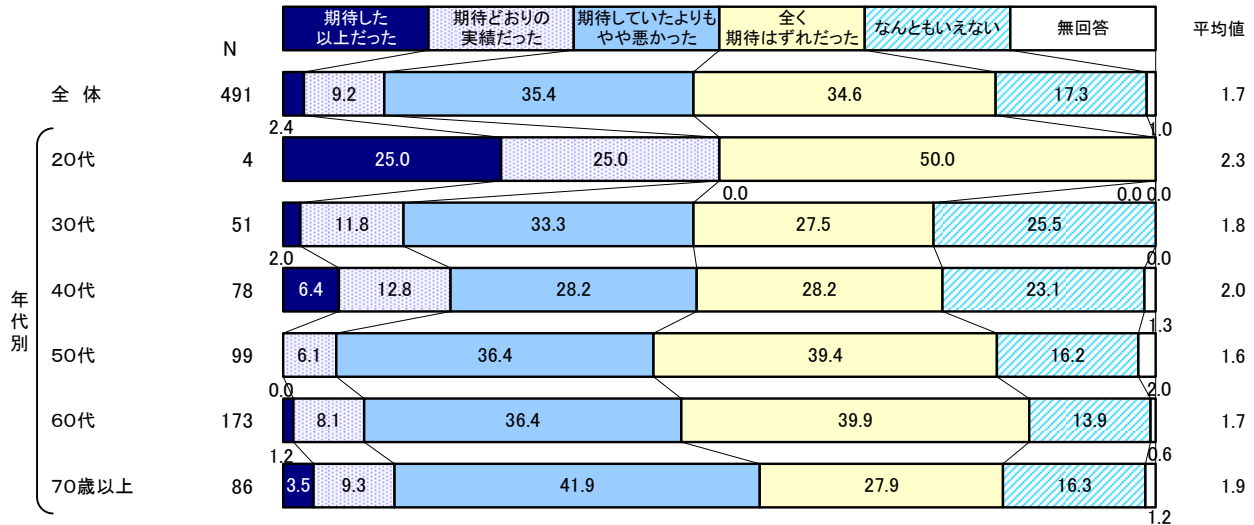
【投資信託の運用実績評価(単数回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



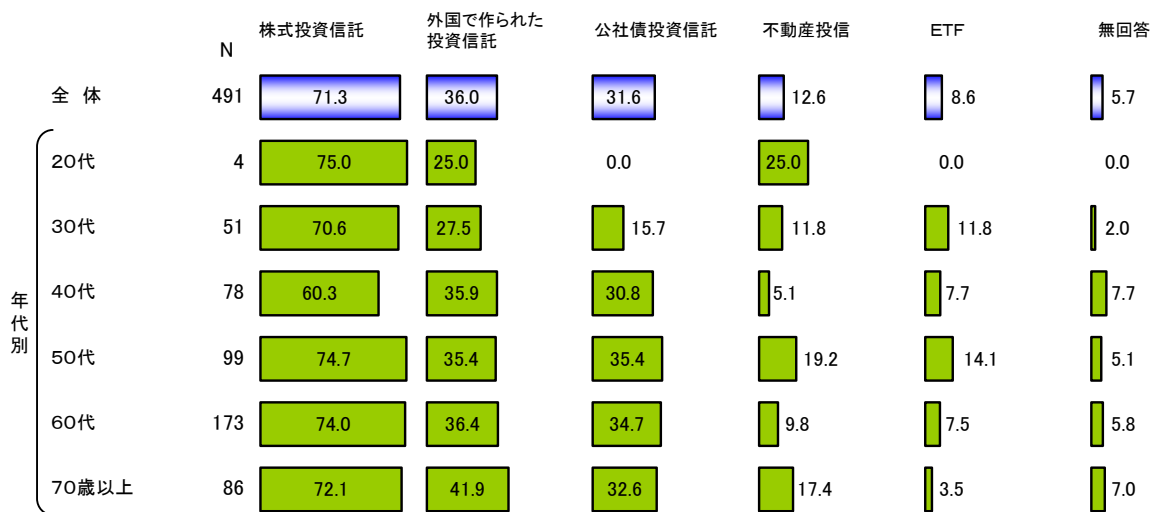
【投資信託の運用実績評価(単数回答)／年代－現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

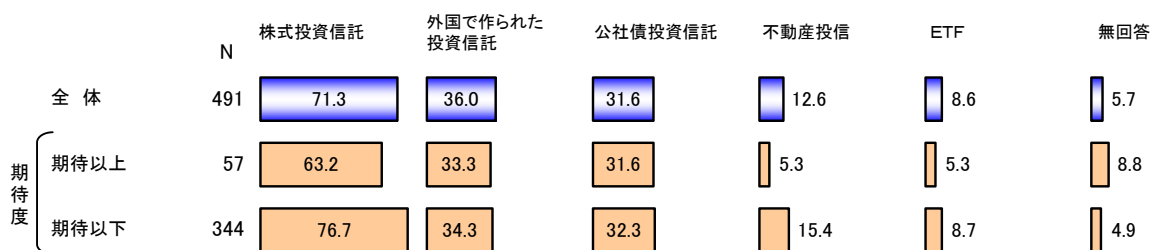


【投資信託の保有種類(重複回答)／年代－現在保有層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の保有種類(重複回答)／投資信託の運用実績評価－現在保有層ベース】



*運用実績評価の「なんともいえない」「無回答」は除いた

(8)償還・売却資金の流出先〔問16〕

投資信託の償還あるいは売却によって得たお金は、「預貯金にまわした」が36.9%で最も高く、次いで「生活資金にまわした」(22.8%)、「他の投資信託を購入した」(16.9%)、「株式・債券を購入した」(16.0%)の順に高いが、「金融商品以外の商品の購入にあてた」は3.8%と低い。

平成18年の調査結果と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、男性に比べ女性では「預貯金にまわした」が44.4%と高い。

年代別では、「他の投資信託を購入した」は年代が上がるほど高い傾向がみられる。

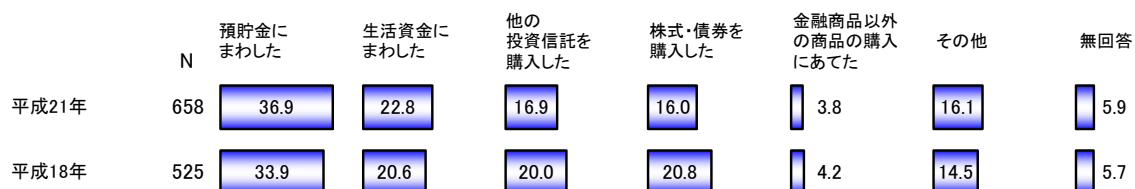
年収別では、年収が300万円未満と低い層では、それ以上の層に比べて「預貯金にまわした」がやや高い。「生活資金にまわした」も100万円未満の低年収層が最も高く、29.3%となっているが、1000万円以上の高年収層では8.8%と低い。一方、「株式・債券を購入した」(26.5%)は1000万円以上の高年収層で特に高い。

投資信託保有状況別では、保有経験層では「預貯金にまわした」(51.5%)が過半数を占め、現在保有層を大きく上回っている。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層は、その他投資信託保有層に比較して、「預貯金にまわした」が低く、「他の投資信託を購入した」は高い。

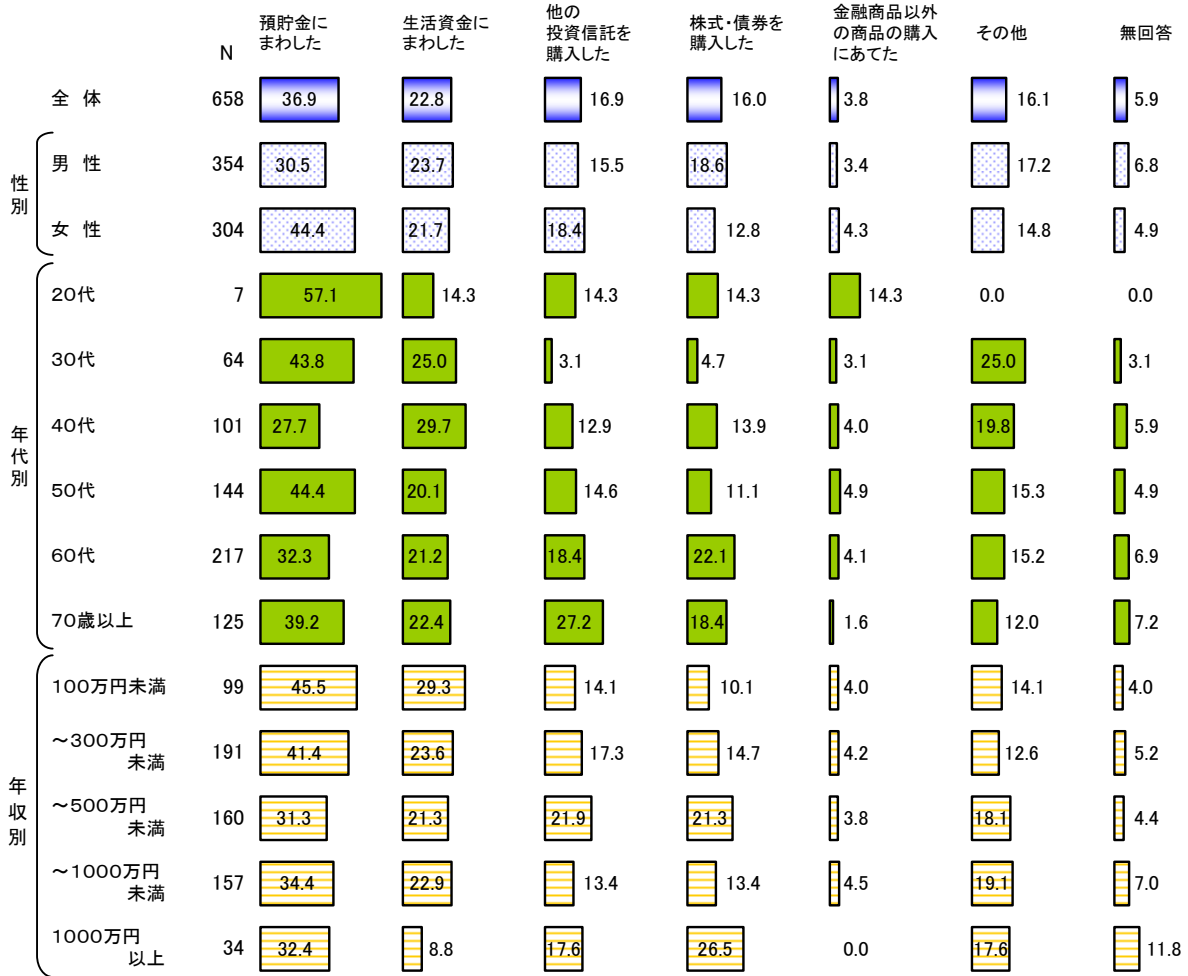
なお、公社債投資信託のみ保有層は、N数(サンプル数)が少ないため、コメントを割愛している。

【償還・売却資金の流出先(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



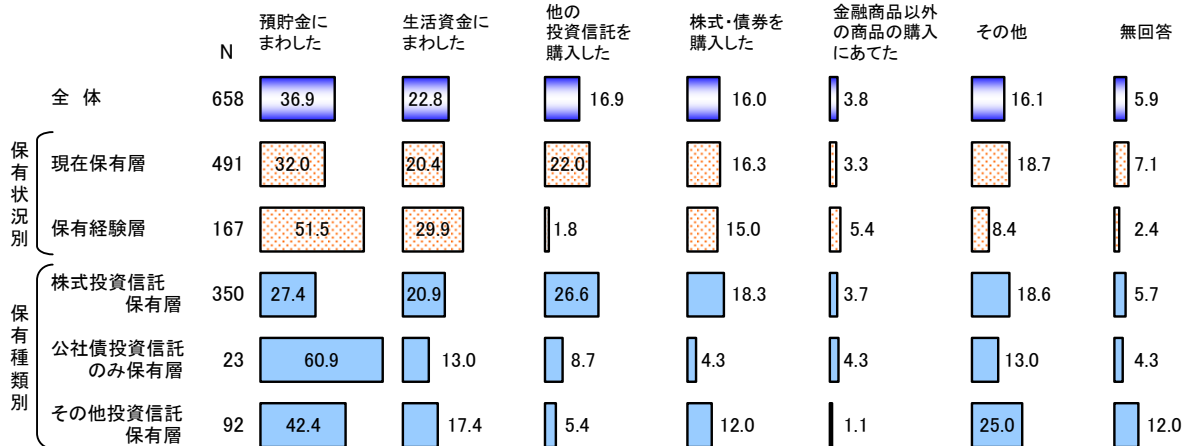
【償還・売却資金の流出先(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【償還・売却資金の流出先(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(9) 目論見書閱讀状況〔問 13、問 13-1〕

① 目論見書閱讀経験

投資信託購入の際に交付される「投資信託説明書（目論見書）」を「全部読んだ」のは 5.3%、「必要と思われる項目を読んだ」は 35.3%であり、これらを合わせた“閱讀率”は 40.6%である。一方、「あまり読まなかった」は 58.5%と過半数を占める。

対象者属性別では、性別でみると、“閱讀率”は男性が 43.8%、女性が 36.8%と男性が女性をやや上回っている。

年代別の“閱讀率”は 30 代が 31.2%と最も低く、40 代は 47.6%、70 歳以上は 48.8%とやや高い。

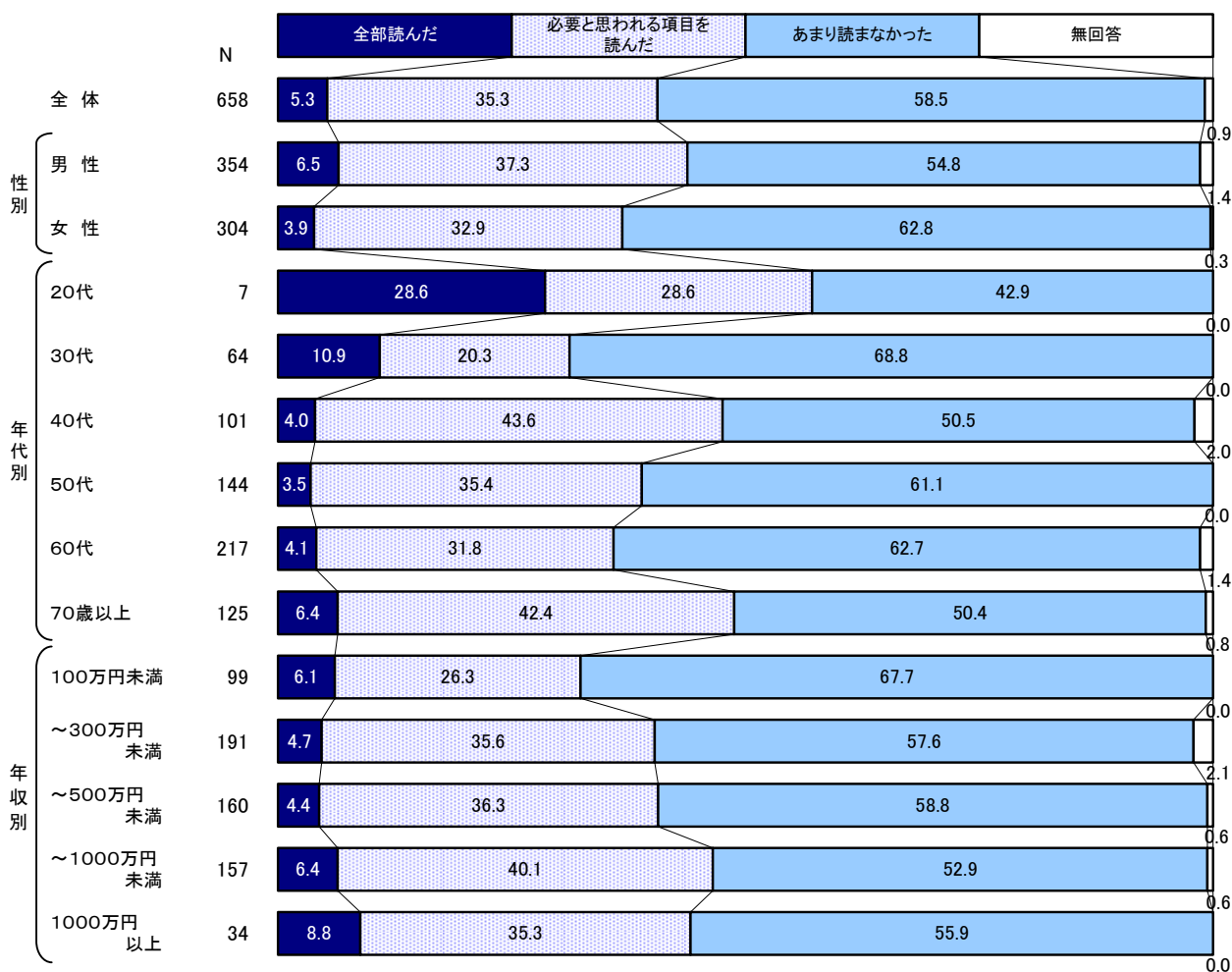
年収別では、100 万円未満の低年収層の“閱讀率”が 32.4%と最も低い。

投資信託保有状況別では、“閱讀率”には大きな差はみられない。

投資信託保有種類別でも、各層の“閱讀率”に大きな差はみられない。

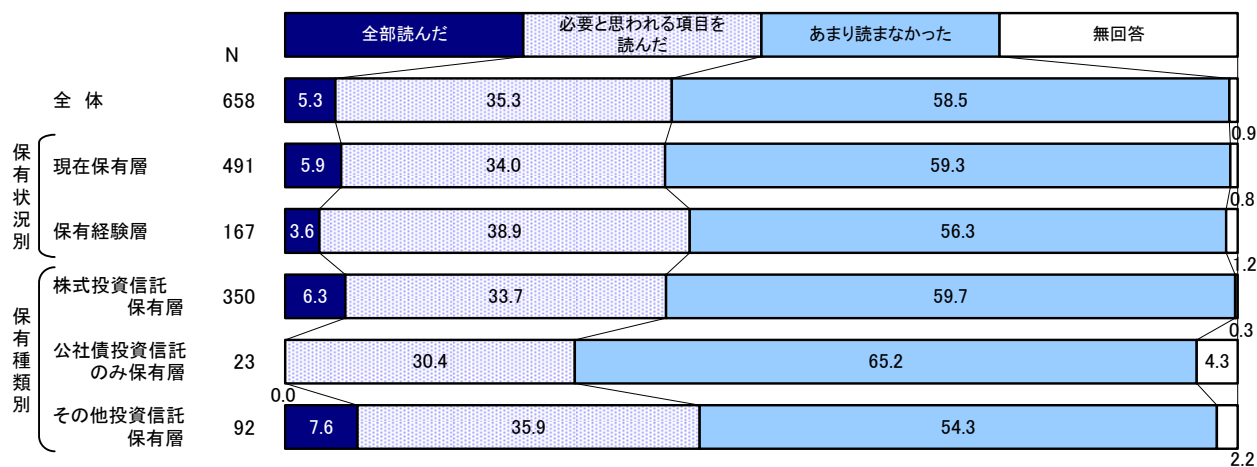
【目論見書閱讀経験(単数回答)／基本軸 1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【目論見書閱讀經驗(単数回答)／基本軸2－現在保有層・保有經驗層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



② 目論見書未読理由(現在保有層・保有経験層のうち目論見書非朗読者)

目論見書を「あまり読まなかつた」人に対し、その理由を尋ねたところ、「内容が多すぎて読む気にならない」が79.7%と特に高い。次いで、「専門用語が多すぎるので理解しづらゐ」(46.0%)、「重要な箇所がわからない」(35.6%)の順となっている。

対象者属性別では、性別でみると、大きな差はみられない。

年代別では、「重要な箇所がわからない」は40代で45.1%とやや高い。

年収別では、100万円未満の低年収層では「専門用語が多すぎるので理解しづらゐ」(52.2%)、「重要な箇所がわからない」(40.3%)の比率がやや高い。

投資信託保有状況別では大きな差はみられない。

投資信託保有種類別では、「専門用語が多すぎるので理解しづらゐ」は、株式投資信託保有層がその他投資信託保有層よりやや高い。

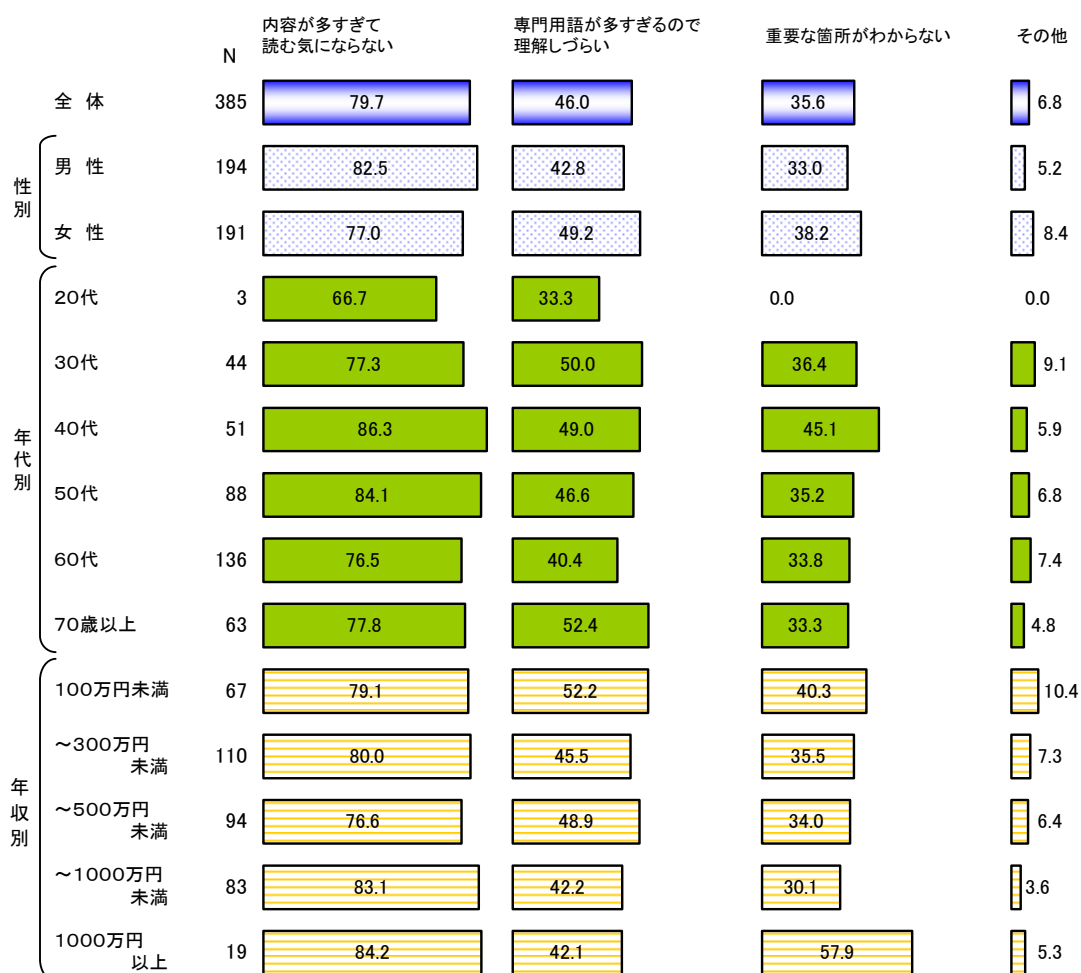
なお、公社債投資信託のみ保有層は、N数(サンプル数)が少ないため、コメントを割愛している。

その他の自由回答では「販売員の説明に満足したから」「文字が小さい」「投資額が小額だから」などが挙げられている。

【目論見書未読理由(単数回答)／基本軸1

－現在保有層・保有経験層のうち目論見書未朗読者ベース

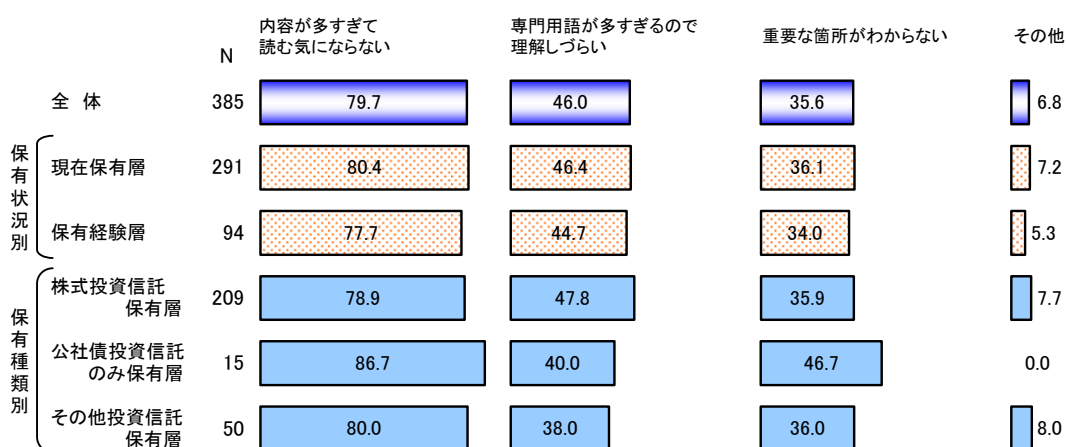
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【目論見書未読理由(単数回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層のうち目論見書未閲覧者ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(10) 運用報告書閲読状況〔問 14、問 14-1、問 14-2〕

① 運用報告書閲読経験

決算期に発行される「運用報告書」を「読んだことがある」のは 65.5%と過半数を占めるが、「読んだことはない」との回答も 33.6%ある。

平成 18 年の調査結果と比べると、「読んだことがある」は 4.5 ポイントとわずかながら高くなっている。

対象者属性別では、性別で見ると、閲読経験率は男性が 68.6%と、女性の 61.8%をわずかに上回っている。

年代別では、40 代で 69.3%と他の年代に比べて閲読経験率がやや高い。

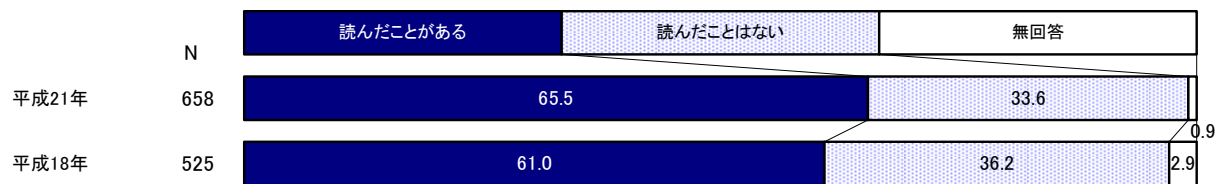
年収別にみると、閲読経験率は（300 万円以上）1000 万円未満の中間層では約 70%と他の層よりやや高い。

投資信託保有状況別では、閲読経験率は現在保有層の方がやや高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層の閲読経験率がその他投資信託保有層を大きく上回る。

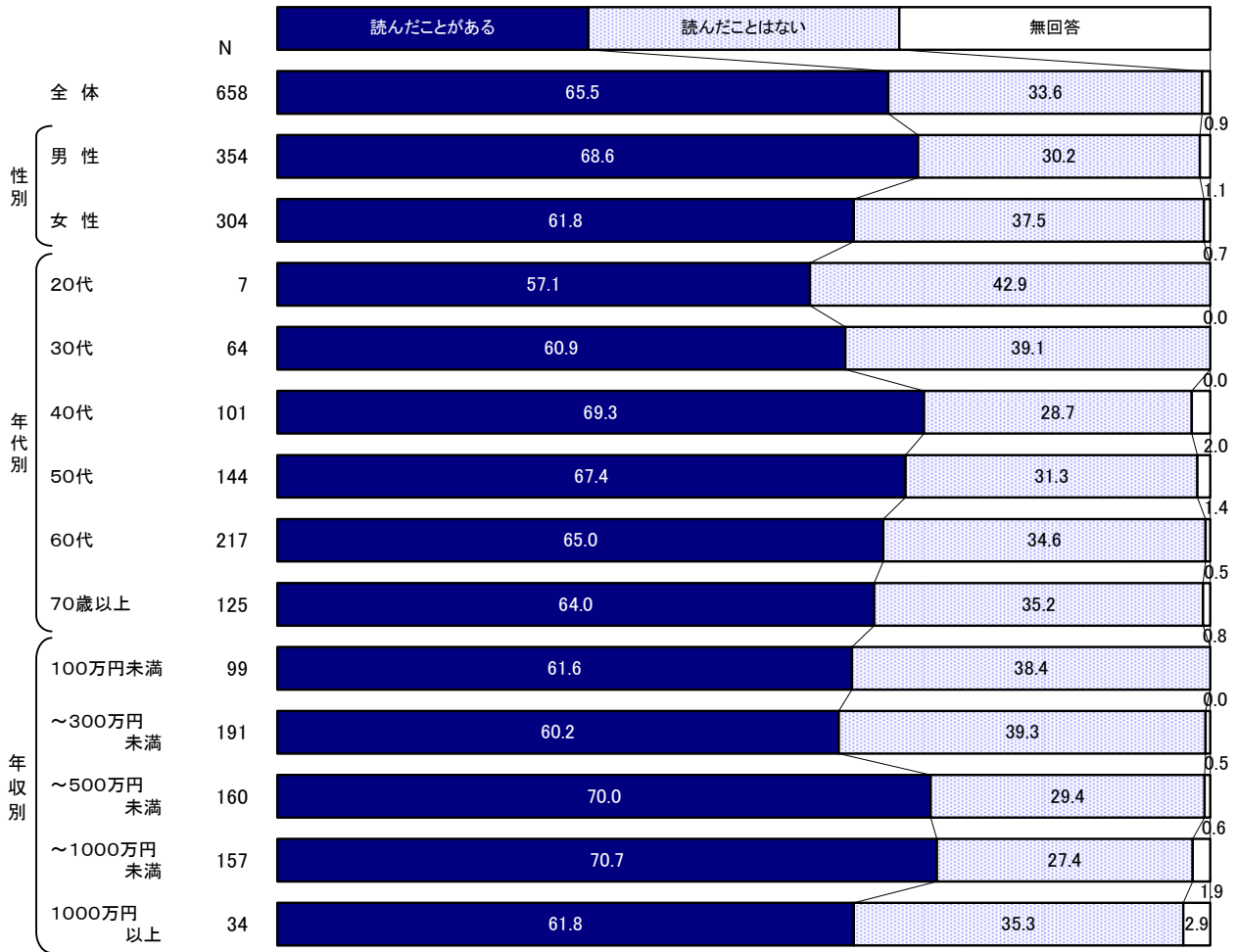
なお、公社債投資信託のみ保有層は、N 数（サンプル数）が少ないため、コメントを割愛している。

【運用報告書閲読経験(単数回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



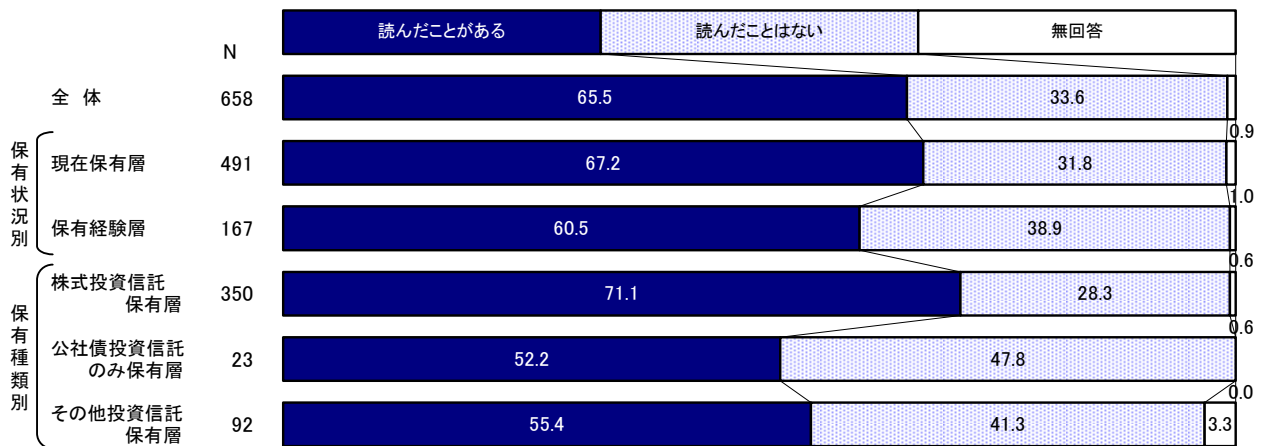
【運用報告書閲読経験(単数回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【運用報告書閲読経験(単数回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



② 運用報告書理解状況(運用報告書閲読経験者)

「運用報告書」閲読経験者に「運用報告書」の理解状況を尋ねたところ、「よく理解できた」のは4.4%のみであり、「まあまあ理解できた」(45.2%)と合わせた“理解層”は49.6%とほぼ半数を占める。一方、「よくわからなかった」(46.4%)と「全くわからなかった」(2.8%)を合わせた“非理解層”は49.2%であり、“理解層”と“非理解層”は拮抗している。

平成18年の調査結果と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、“理解層”比率は男性が56.0%と女性の41.5%より高い。

年代別では、“理解層”比率は70歳以上で61.3%と特に高い。

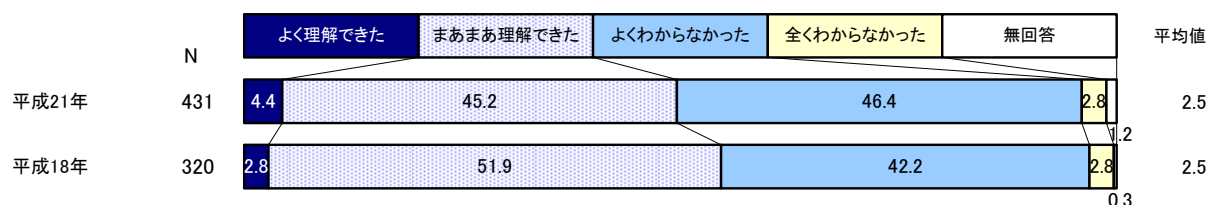
年収別では、“理解層”比率は100万円未満の低年収層で32.7%と特に低いが、年収が上がるにつれ高くなり、(300万円以上)500万円未満より年収が高い層では50%台でほぼ一定となっている。

投資信託保有状況別では、“理解層”比率に大きな差はみられない。

投資信託保有種類別でも、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層の“理解層”比率には大きな差はみられない。

【運用報告書理解状況(単数回答)／時系列

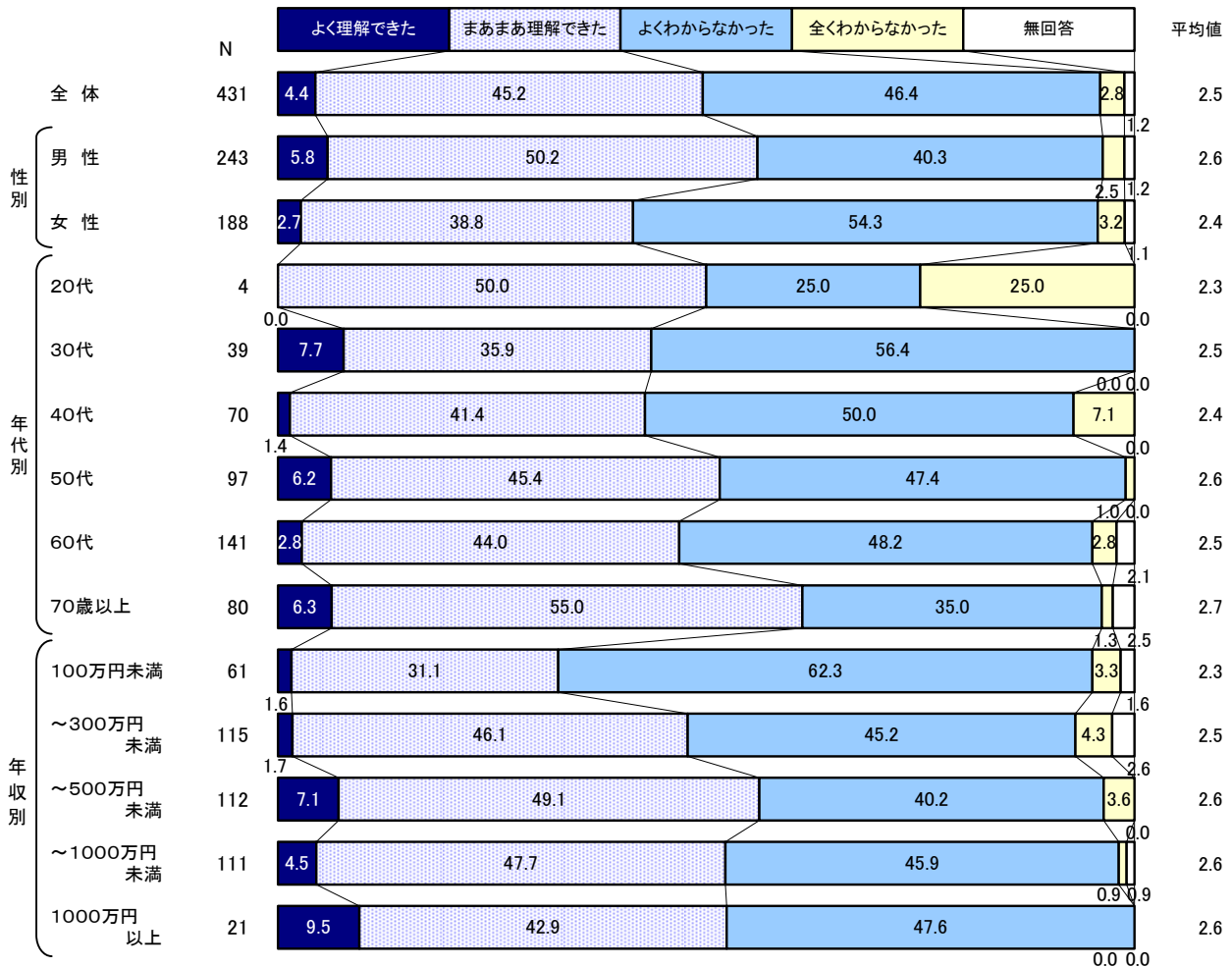
－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閲読経験者ベース



【運用報告書理解状況(単数回答)／基本軸1

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読経験者ベース

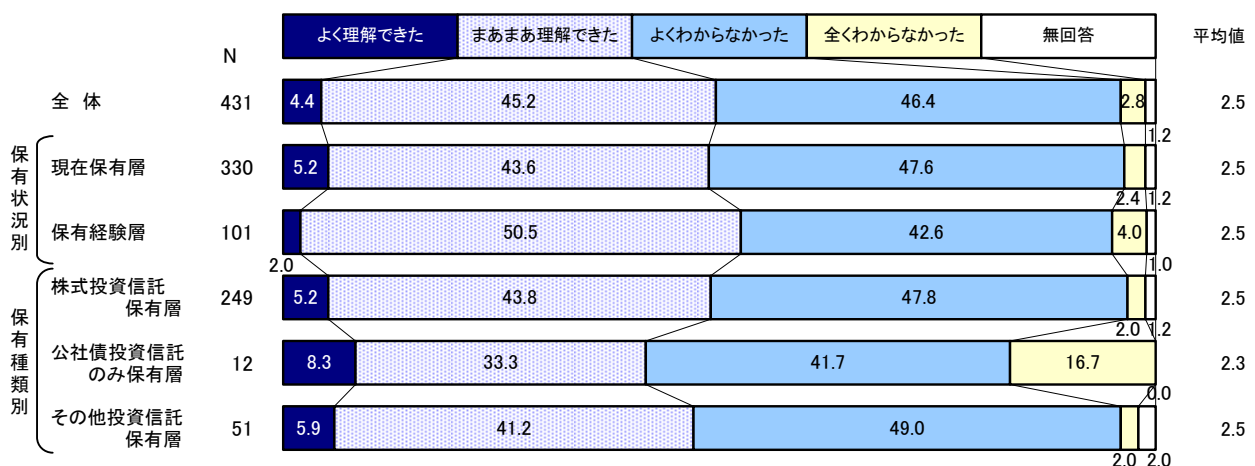
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【運用報告書理解状況(単数回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読経験者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



③ 運用報告書未読理由(運用報告書閲読未経験者)

「運用報告書」閲読未経験者に、「運用報告書」を読んだことがない理由を尋ねたところ、「特に興味もなかったので」(45.2%)と「難しそうだったので」(44.3%)がほぼ同程度で高く、両者で90%弱を占めている。「発行されていることも知らなかった」は9.5%みられる。

平成18年の調査結果と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別で見ると、大きな差はみられない。

年代別にみると、70歳以上では「難しそうだったので」が56.8%と多数派となっているが、50代・60代では「特に興味もなかったので」と同程度になっている。

年収別では、顕著な差はみられない。

投資信託保有状況別では、保有経験層では「発行されていることも知らなかった」が20.0%と高い。また、保有経験層では「難しそうだったので」が35.4%と、現在保有層の48.1%より低い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層に比べ「難しそうだったので」が高い。

なお、公社債投資信託のみ保有層は、N数(サンプル数)が少ないため、コメントを割愛している。

【運用報告書未読理由(単数回答)／時系列

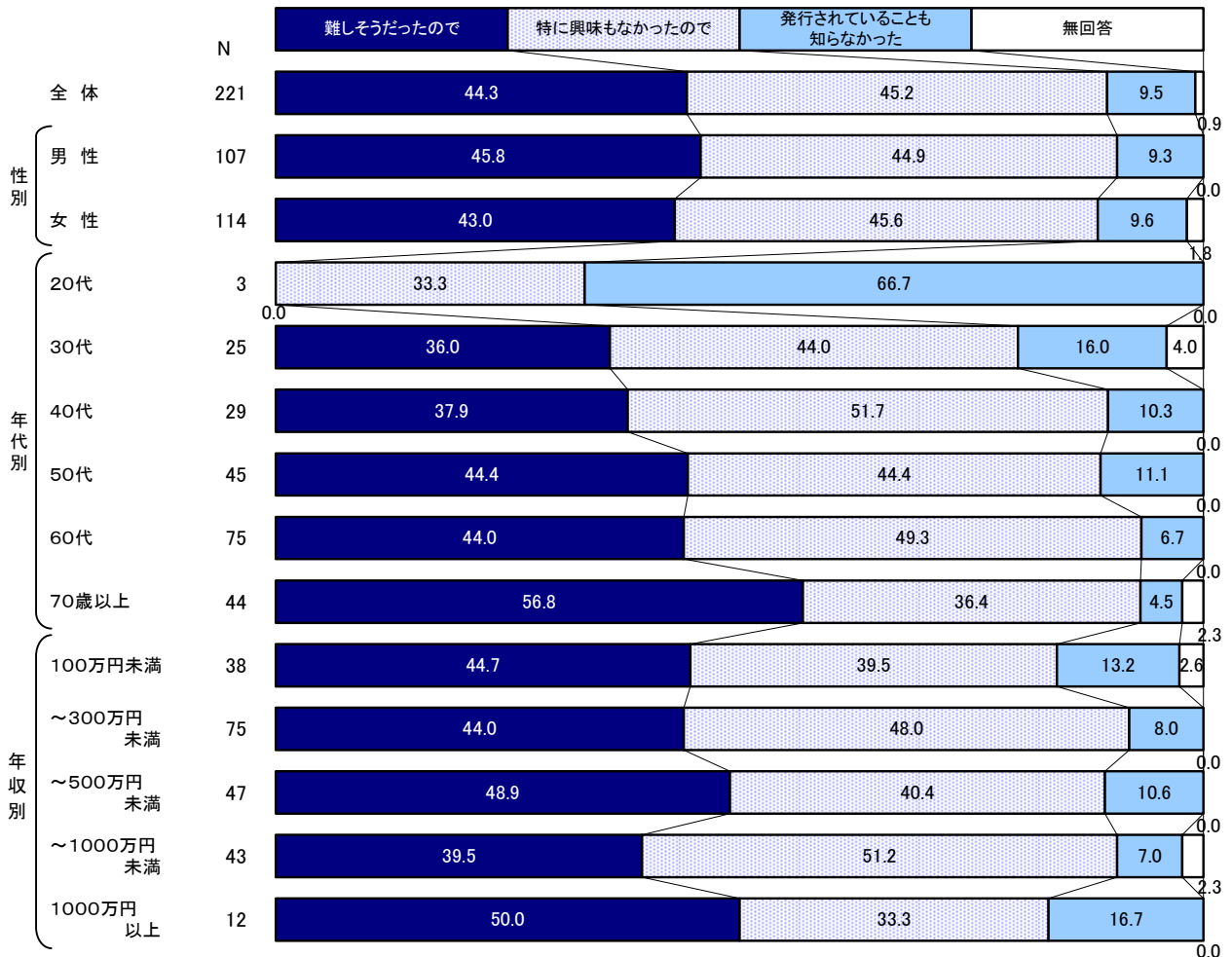
－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閲読未経験者ベース】

	N	難しそうだったので	特に興味もなかったので	発行されていることも知らなかった	無回答
平成21年	221	44.3	45.2	9.5	0.9
平成18年	190	43.2	45.3	11.1	0.5

【運用報告書未読理由(単数回答)／基本軸1

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閱讀未経験者ベース

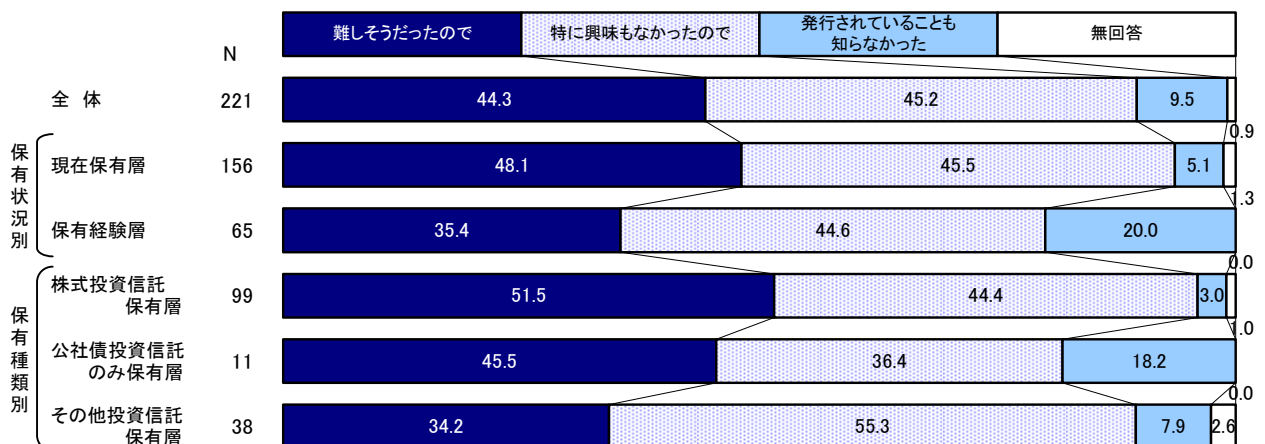
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【運用報告書未読理由(単数回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層のうち運用報告書閱讀未経験者ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(11) 評価会社による運用評価の認知・利用状況〔問 17〕

評価会社による運用評価については、「評価会社の評価を参考に購入した経験あり」のは6.2%のみである。「評価会社の評価を見たことがある」のは41.0%であり、これらを合わせた“認知率”は47.2%と半数弱となっている。なお、「評価会社があること自体知らなかった」のは49.4%である。

平成18年の調査結果と比べても、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみると、“認知率”は男性が51.7%と女性の42.1%よりやや高い。

年代別では、“認知率”に大きな差はみられないが、「評価会社の評価を参考に購入した経験あり」は、30代と50代で10%弱みられる。

年収別では、年収が高いほど“認知率”が高くなる傾向がみられ、特に(500万円以上)1000万円未満より年収が高い層では「評価会社の評価を参考に購入した経験がある」が10%前後と高い。

投資信託保有状況別にみると、現在保有層と保有経験層は「評価会社の評価を参考に購入した経験あり」率には差がみられないが、“認知率”は現在保有層の方がやや高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層の間に大きな差はみられない。

【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／時系列

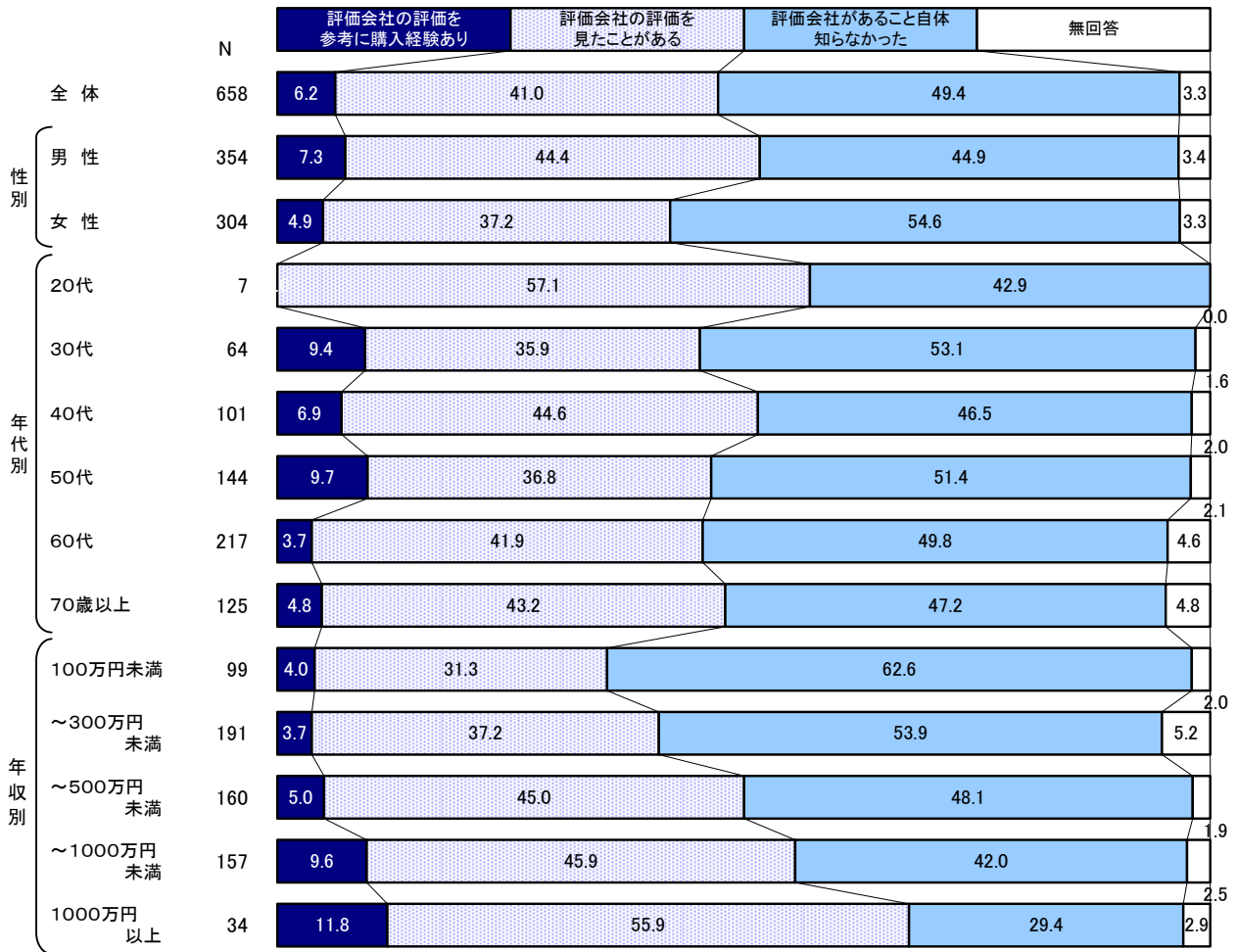
－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	評価会社の評価を参考に購入経験あり	評価会社の評価を見たことがある	評価会社があること自体知らなかった	無回答
平成21年	658	6.2	41.0	49.4	3.3
平成18年	525	6.3	42.5	47.8	3.4

【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／基本軸1

－現在保有層・保有経験層ベース

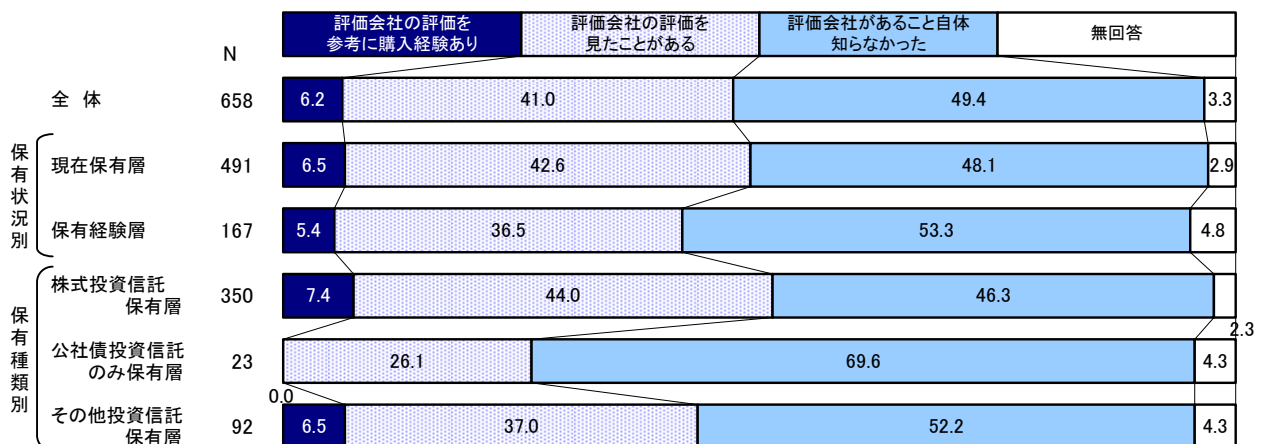
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【評価会社による運用評価の認知・利用状況(単数回答)／基本軸2

－現在保有層・保有経験層ベース

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(12) 投資信託の優れていると感じる点〔問 18①②〕

他の金融商品と比較した場合に投資信託が優れていると感じる点(重複回答)は、「定期的に分配金が受け取れる」(52.1%)、「専門知識がなくても投資ができる」(49.5%)、「比較的高い利回りが期待できる」(45.4%)が上位を占めており、「少額でも株式投資の面白味がある」(33.6%)、「購入手続きが簡単である」(31.3%)などが続く。

平成18年の調査結果と比べると、「定期的に分配金が受け取れる」は6.6ポイント高くなったが、「専門知識がなくても投資ができる」は5.7ポイント低くなった。

対象者属性別では、性別でみると、「定期的に分配金が受け取れる」は男性が47.5%、女性が57.6%と女性の方が高い。

年代別では、「定期的に分配金が受け取れる」は30代、40代に比べ50代以上の方が高い。40代では「比較的高い利回りが期待できる」(57.4%)が他の層より高く、この年代のトップ項目となっている。また、下位項目では高年齢層より中・若年層の方が高い項目が多く、若年層では多様な点を優位点として評価している様子が見られる。

年収別でみると、「少額でも株式投資の面白味がある」「種類が豊富で目的に応じたものが選べる」「分配金が自動的に複利にまわる商品がある」では年収が高いほどやや高くなる傾向が見られる。

投資信託保有状況別では、「定期的に分配金が受け取れる」は現在保有層が58.9%だが、これに比べて保有経験層では32.3%とかなり低い。一方、「少額でも株式投資の面白味がある」は保有経験層の方が高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層はその他投資信託保有層に比べ「専門知識がなくても投資ができる」ことを評価する率が高い。

なお、公社債投資信託のみ保有層は、N数(サンプル数)が少ないため、コメントを割愛している。

投資信託が優れていると感じる点のうち、特に魅力を感じる点(単数回答)としては、「定期的に分配金が受け取れる」(24.8%)と「比較的高い利回りが期待できる」(20.1%)が高く、この2項目でほぼ半数を占める。次いで、「専門知識がなくても投資ができる」(12.3%)、「少額でも株式投資の面白味がある」(8.7%)が続く。

平成18年の調査結果と比べると、「定期的に分配金が受け取れる」は8.0ポイント高くなり、第3位からトップに上がったが、「専門知識がなくても投資ができる」は6.7ポイント低下し、第2位から第3位に下がった。

対象者属性別では、性別でみると、「定期的に分配金が受け取れる」は男性の19.5%よりも、女性の方が30.9%と高く、女性ではこれが「比較的高い利回りが期待できる」(17.1%)を大きく上回っている。

年代別では、30代、40代は「比較的高い利回りが期待できる」がトップであるが、50代以上では「定期的に分配金が受け取れる」がトップとなっている。

年収別では、300万円未満より低い低年収層では「定期的に分配金が受け取れる」がトップであるが、「専門知識がなくても投資ができる」は年収が高くなるほど高くなり、1000万円以上の高年収層では29.4%とトップとなっている。

投資信託保有状況別では、「定期的に分配金が受け取れる」は現在保有層の方が保有経験層より高い。

投資信託保有種類別では、株式投資信託保有層とその他投資信託保有層の間には大きな差は見られない。

【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】

	N	定期的に 分配金が 受け取れる	専門知識が なくても 投資が できる	比較的高い 利回りが 期待できる	少額でも 株式投資の 面白味が ある	購入手続き が簡単で ある	種類が豊富 で目的に 応じて 選べる	分配金が 自動的に 複利に回る 商品がある	積立て 投資 ができる	海外投資が 手軽に できる	その他	よく わからない	無回答
平成21年	658	52.1	49.5	45.4	33.6	31.3	21.9	19.8	19.5	18.4	0.8	4.6	2.3
平成18年	525	45.5	55.2	42.1	36.6	33.9	22.9	15.6	19.8	18.5	0.2	4.4	4.2

【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	定期的に 分配金が 受け取れる	専門知識が なくても 投資が できる	比較的高い 利回りが 期待できる	少額でも 株式投資の 面白味が ある	購入手続き が簡単で ある	種類が豊富 で目的に 応じて 選べる	分配金が 自動的に 複利に回る 商品がある	積立て 投資 ができる	海外投資が 手軽に できる	その他	よく わからない	無回答
全体	658	52.1	49.5	45.4	33.6	31.3	21.9	19.8	19.5	18.4	0.8	4.6	2.3
性別													
男性	354	47.5	50.0	43.8	36.7	29.9	24.0	20.9	21.5	19.8	0.6	5.1	2.5
女性	304	57.6	49.0	47.4	29.9	32.9	19.4	18.4	17.1	16.8	1.0	3.9	2.0
年代別													
20代	7	28.6	85.7	42.9	42.9	57.1	42.9	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0
30代	64	42.2	54.7	39.1	46.9	26.6	34.4	14.1	26.6	29.7	0.0	4.7	0.0
40代	101	42.6	52.5	57.4	44.6	30.7	34.7	24.8	28.7	26.7	1.0	3.0	1.0
50代	144	54.9	47.9	47.9	38.2	35.4	28.5	21.5	20.8	17.4	0.7	3.5	2.1
60代	217	58.1	48.8	45.6	26.7	29.0	13.4	18.4	16.1	13.8	0.9	4.6	1.4
70歳以上	125	52.8	45.6	36.0	24.0	32.0	11.2	18.4	12.0	14.4	0.8	7.2	6.4
年収別													
100万円未満	99	55.6	49.5	52.5	30.3	35.4	20.2	13.1	10.1	16.2	0.0	5.1	2.0
～300万円 未満	191	58.1	44.5	44.5	27.2	31.9	13.6	19.9	17.8	12.0	2.6	5.8	3.1
～500万円 未満	160	52.5	50.6	41.3	33.1	28.8	24.4	21.3	19.4	24.4	0.0	4.4	2.5
～1000万円 未満	157	42.7	55.4	47.1	42.7	31.2	28.0	21.0	28.0	21.7	0.0	3.8	0.6
1000万円 以上	34	55.9	50.0	50.0	44.1	32.4	32.4	32.4	20.6	14.7	0.0	0.0	5.9

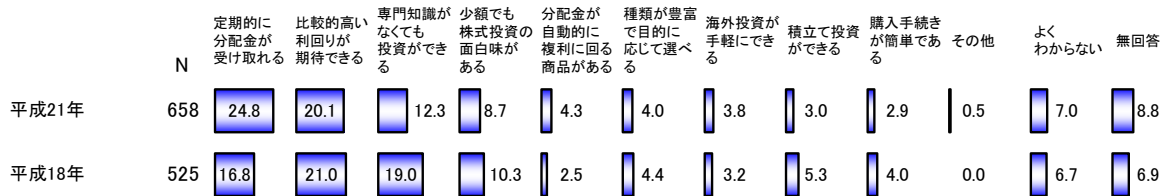
【投資信託の優れていると感じる点(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

	N	定期的に 分配金が 受け取れる	専門知識が なくても 投資が できる	比較的高い 利回りが 期待できる	少額でも 株式投資の 面白味が ある	購入手続き が簡単で ある	種類が豊富 で目的に 応じて 選べる	分配金が 自動的に 複利に回る 商品がある	積立て 投資 ができる	海外投資が 手軽に できる	その他	よく わからない	無回答
全体	658	52.1	49.5	45.4	33.6	31.3	21.9	19.8	19.5	18.4	0.8	4.6	2.3
保有状況別													
現在保有層	491	58.9	49.9	47.5	30.5	31.0	21.8	19.1	17.9	20.8	0.6	2.9	2.2
保有経験層	167	32.3	48.5	39.5	42.5	32.3	22.2	21.6	24.0	11.4	1.2	9.6	2.4
保有種類別													
株式投資信託 保有層	350	58.3	54.6	46.3	31.4	33.1	23.1	20.6	19.1	20.9	0.6	3.4	1.4
公社債投資信託 のみ保有層	23	65.2	47.8	47.8	21.7	26.1	8.7	4.3	8.7	4.3	0.0	0.0	0.0
その他投資信託 保有層	92	59.8	39.1	47.8	29.3	27.2	19.6	17.4	15.2	23.9	1.1	2.2	4.3

【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／時系列ー現在保有層・保有経験層ベース】

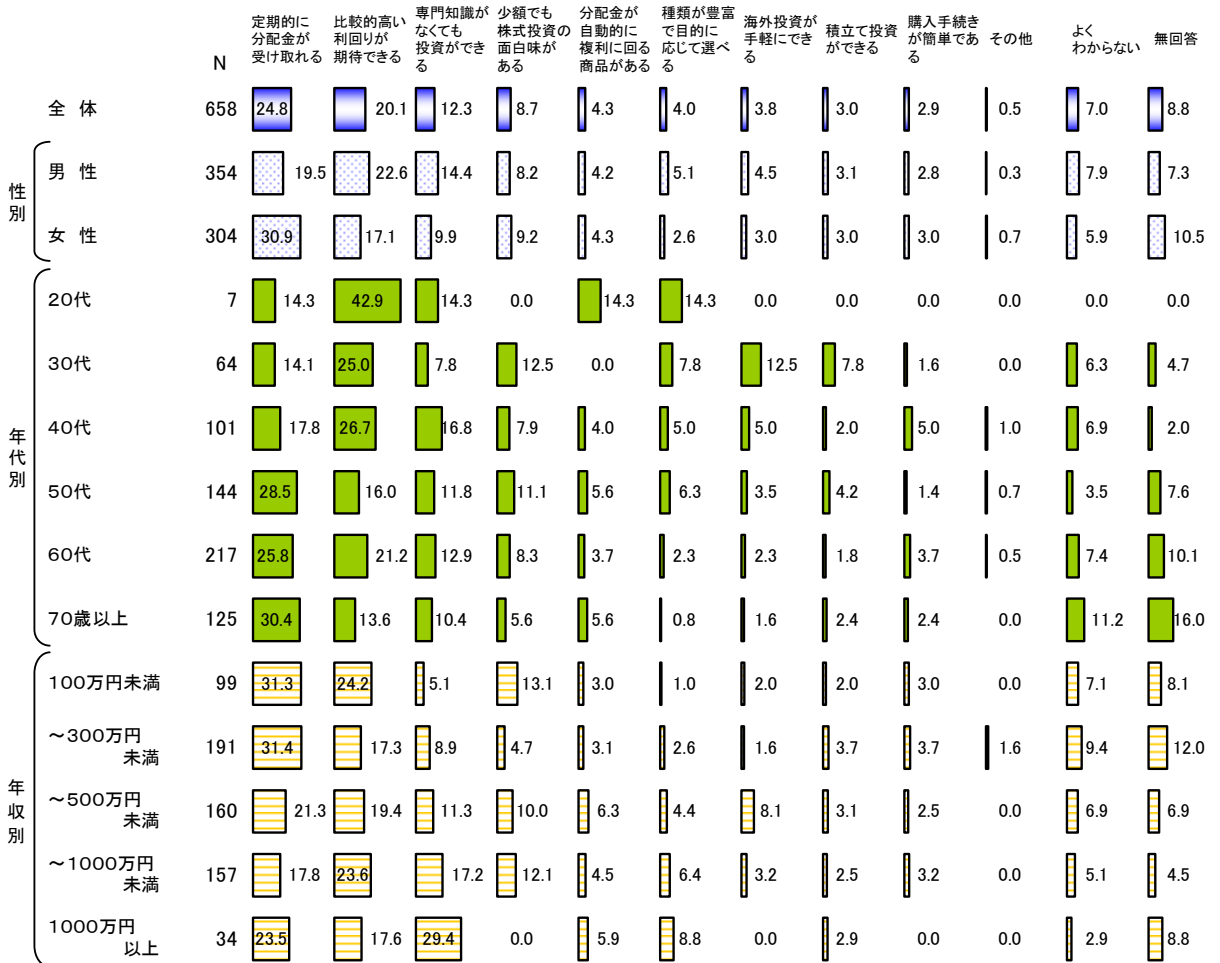
1つだけ



【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／基本軸1ー現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

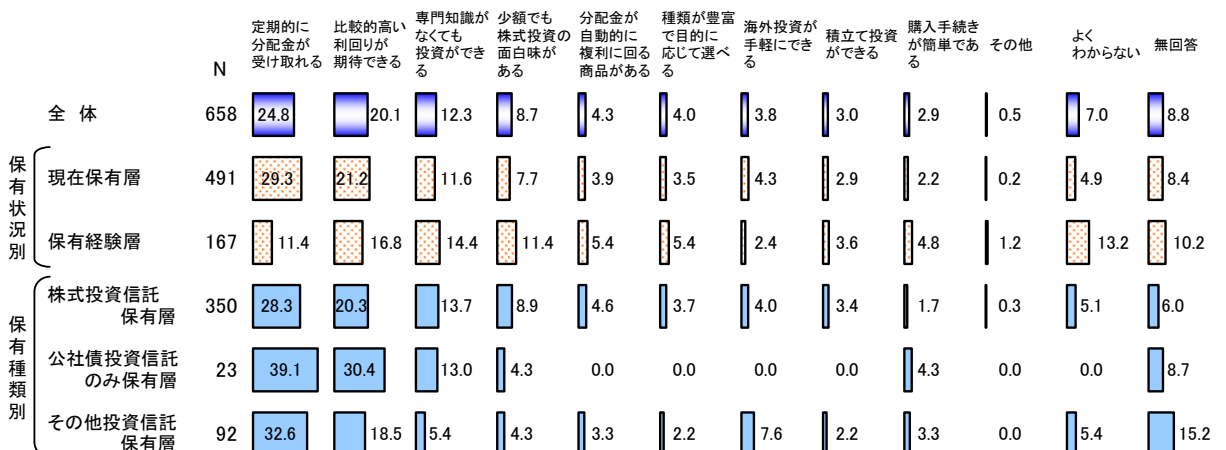
1つだけ



【投資信託の特に魅力を感じる点(単数回答)／基本軸2ー現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

1つだけ



(13) 投資信託の不満を感じる点〔問 19①②〕

他の金融商品と比較した場合、投資信託について不満を感じる点(重複回答)は、「元本保証がない」が64.4%で最も高く、他を大きく上回っている。以下、「手数料が高い」(38.3%)、「運用実績がわかりにくい」(33.1%)、「公社債に比べて安心できない」(31.3%)の順に続く。

平成18年の調査結果と比べると、「元本保証がない」が8.2ポイント高く、第2位以下との差を広げている。

対象者属性別では、性別で見ると、「元本保証がない」は男性の56.5%に比べて女性は73.7%と高く、女性の方が第2位以下との差が大きい。

年代別では、顕著な差はみられない。

年収別にみると、100万円未満の低年収層では「元本保証がない」(75.8%)が他層に比べてやや高い。一方、1000万円以上の高年収層で「種類が多く選択に迷う」(41.2%)、「株式に比べ面白さに欠ける」(32.4%)が他層に比べると高い。

投資信託保有状況別では、「手数料が高い」は現在保有層で43.4%と保有経験層の23.4%に比べて不満が高い。一方、「購入後の運用に関する情報が少ない」「株式に比べて面白さに欠ける」では保有経験層の方が高い。

投資信託保有種類別では、各層の間に顕著な差はみられない。

投資信託の不満を感じる点のうち、特に不満を感じる点(単数回答)としては、「元本保証がない」が36.5%で最も高く、次いで「手数料が高い」が14.3%であり、この2項目で半数を占めている。

平成18年の調査結果と比べると、「元本保証がない」が8.9ポイント高くなった。

対象者属性別では、性別で見ると、「元本保証がない」は男性が28.5%、女性が45.7%と女性の方が高い。

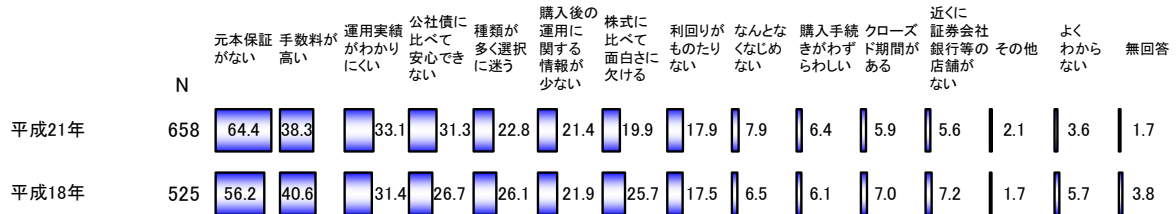
年代別では、大きな差はみられない。

年収別では、「元本保証がない」は100万円未満の低年収層ではほぼ半数を占めるが、1000万円以上の高年収層では26.5%と4分の1程度となっている。

投資信託保有状況別では、大きな差はみられない。

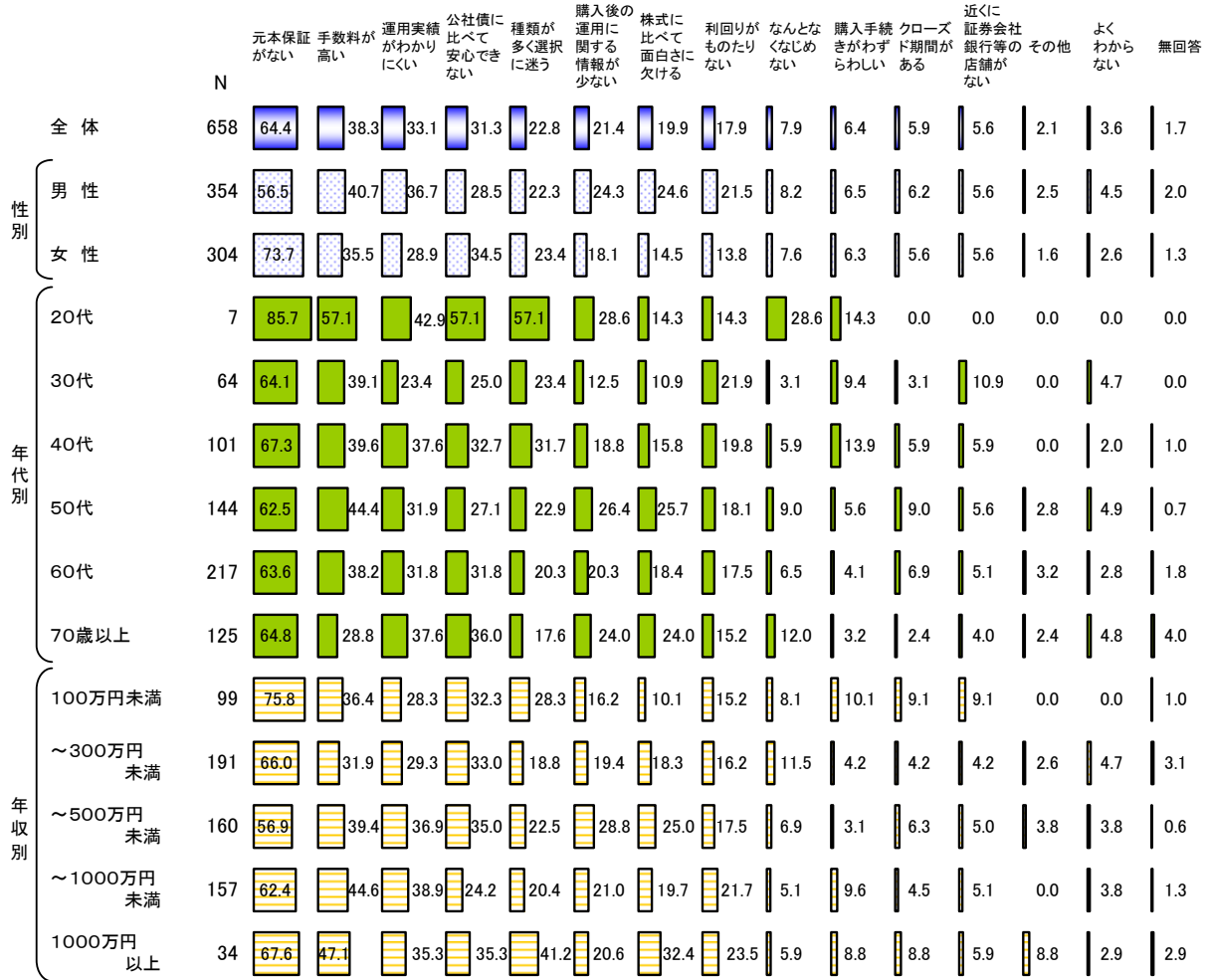
投資信託保有種類別では、各層の間に顕著な差はみられない。

【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



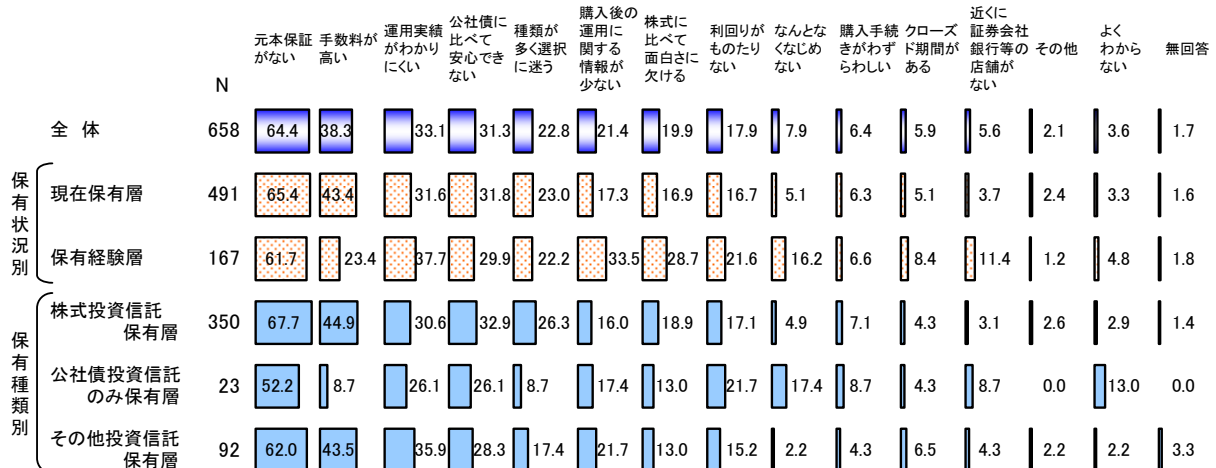
【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

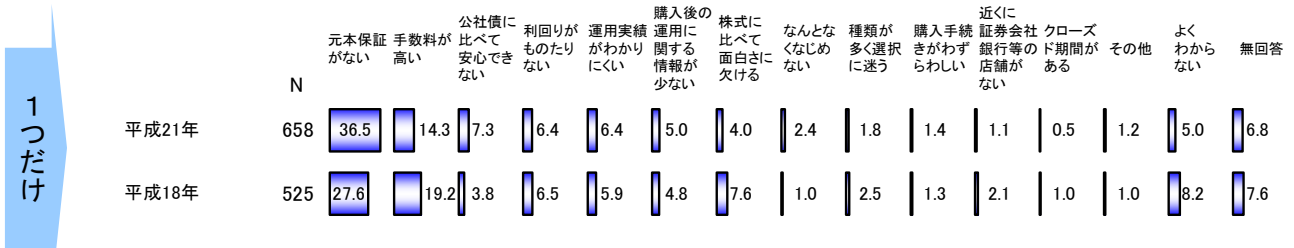


【投資信託の不満を感じる点(重複回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

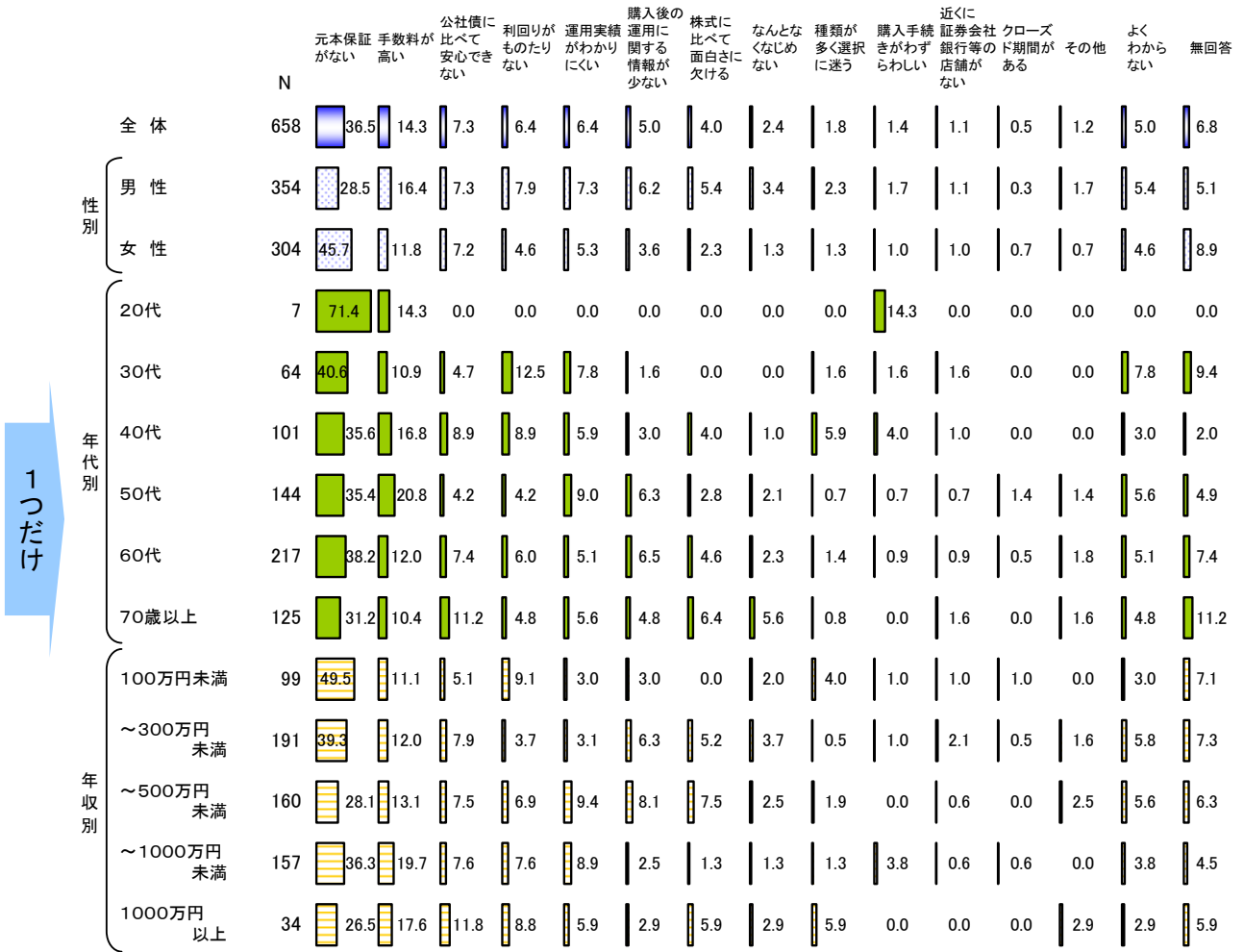


【投資信託の不満を感じる点(単数回答)／時系列－現在保有層・保有経験層ベース】



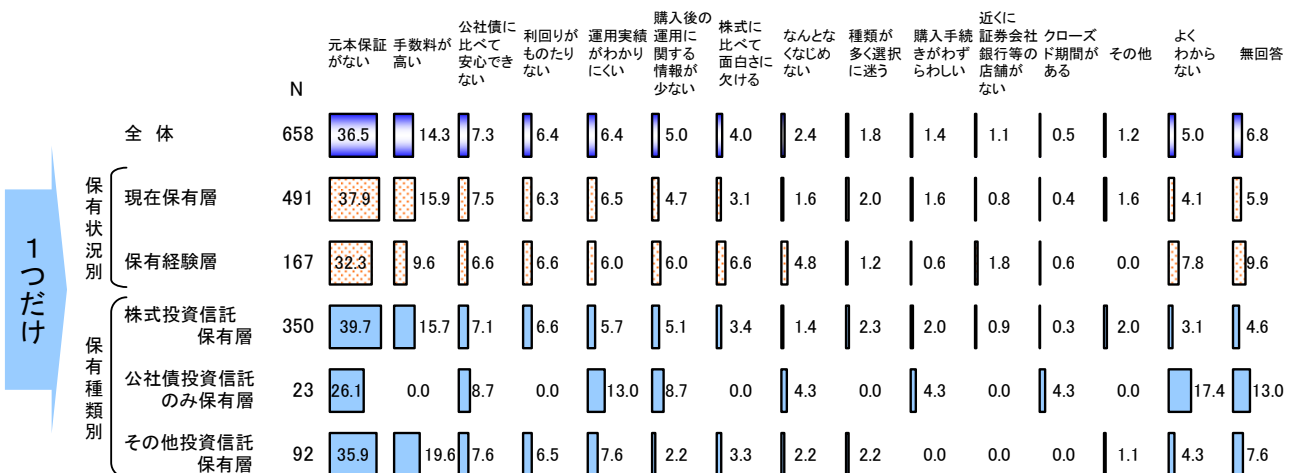
【投資信託の不満を感じる点(単数回答)／基本軸1－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【投資信託の不満を感じる点(単数回答)／基本軸2－現在保有層・保有経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



6. 投資信託保有未経験層の状況

(1) 投資信託の購入意向経験〔問 20〕

これまでに投資信託を保有したことのない人に、投資信託を購入したいと思ったことがあるかを尋ねたところ、「ある」は23.7%であった。

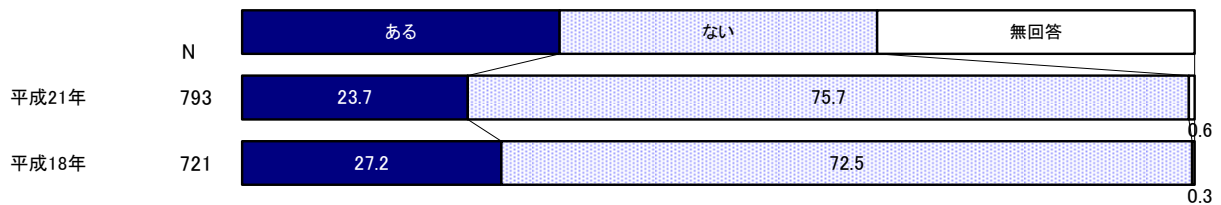
平成18年の調査結果と比べると、大きな変化はみられない。

対象者属性別では、性別でみても大きな違いはみられない。

年代別では、「ある」は30代が29.4%と最も高いが、年代が上がるに従って減少し、70歳以上では14.3%と低い。

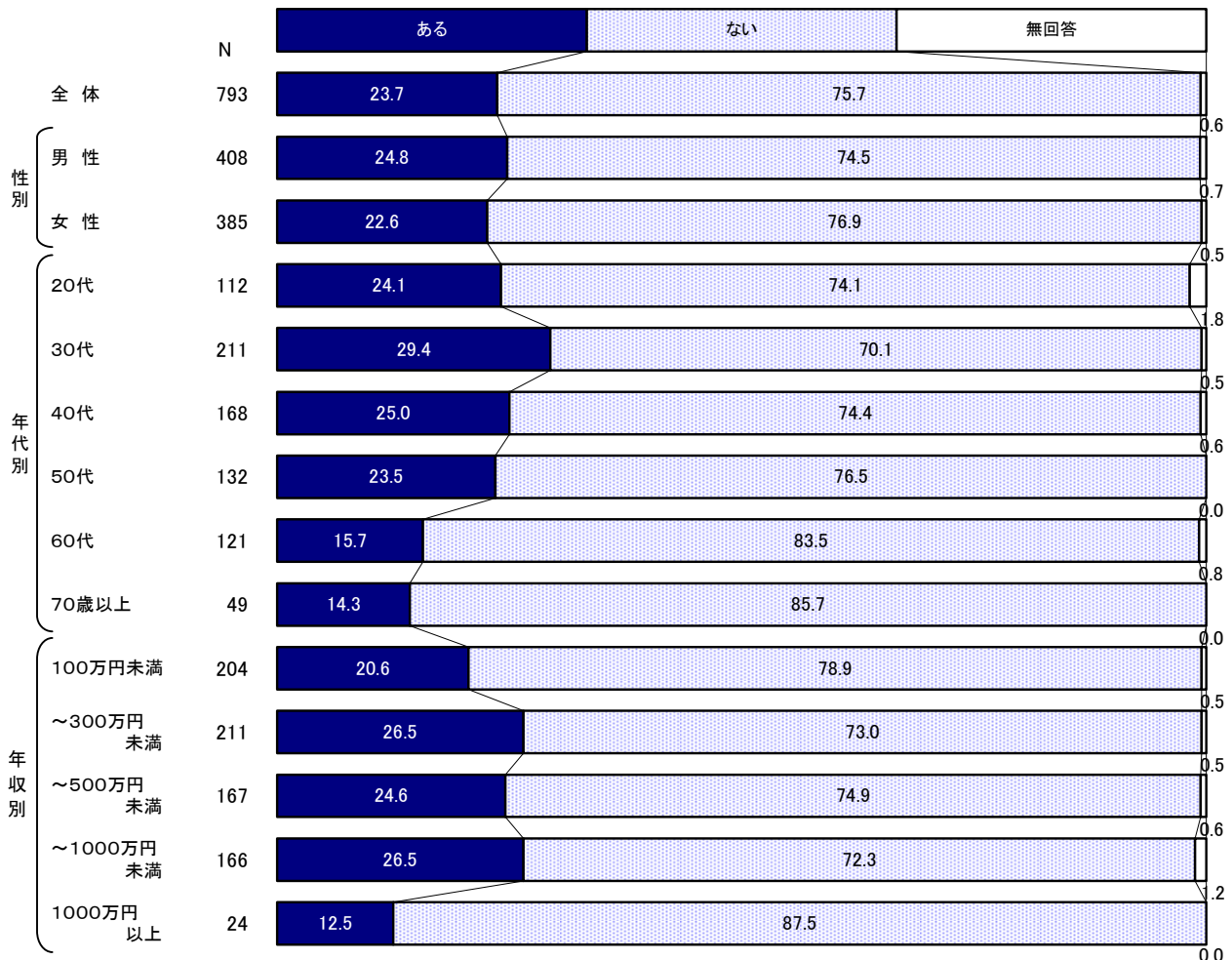
年収別では、大きな差はみられない。

【投資信託の購入意向(単数回答)／時系列－保有未経験層ベース】



【投資信託の購入意向(単数回答)／基本軸1－保有未経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(2) 投資信託の非購入理由〔問 21〕

投資信託保有未経験層に、投資信託を購入しなかった理由を尋ねると、「投資信託がよくわからないので不安」が 65.4%で最も高く、次いで「元本保証がない」が 41.2%と高い。以下、「少額では購入しづらい」(23.8%)、「株式と同様に値上がり・値下がり激しい」(19.4%)が続く。

平成 18 年の調査結果と比べると、「元本保証がない」が 8.1ポイント高くなった。

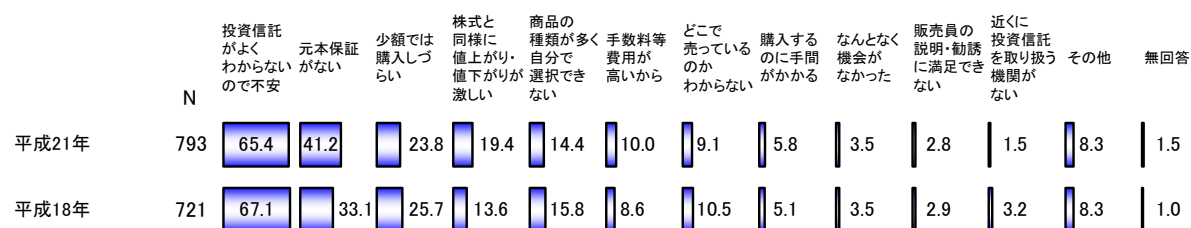
対象者属性別では、性別でみると、「投資信託がよくわからないので不安」は男性が 59.6%で、女性の方が 71.7%と高い。

年代別では、「投資信託がよくわからないので不安」は 40 代以下では 70%前後と高く、これは 50 代以上では約 55%と低い。「元本保証がない」は 40 代以上で 40%台を占める。また、30 代以下では「どこで売っているのかわからない」が他層に比べて高い。

年収別では、「投資信託がよくわからないので不安」は 300 万円未満の低年収層では 70%前後とやや高い。

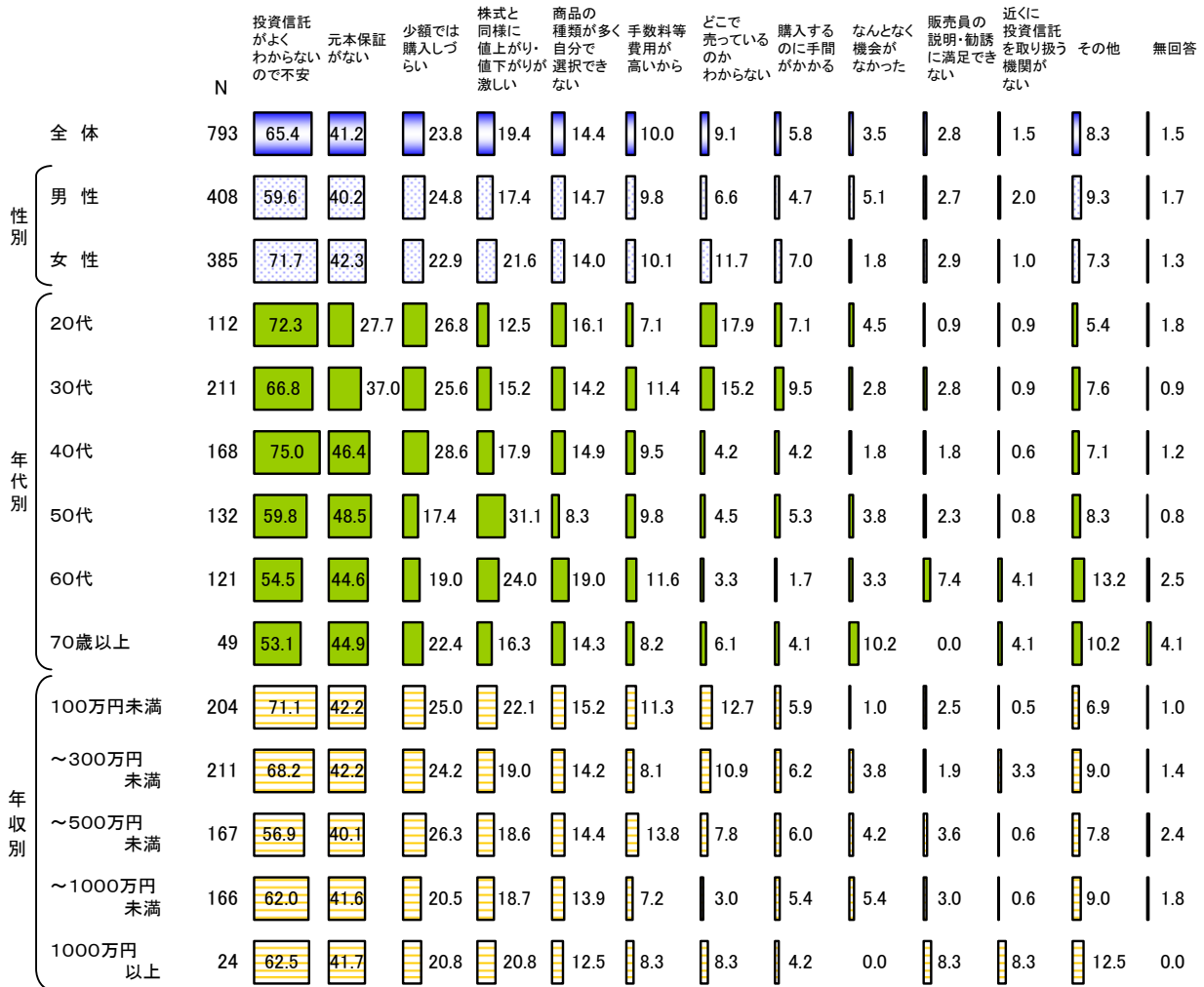
保有状況別にみると、購入意向層では非購入意向層に比べて、「投資信託がよくわからないので不安」(56.9%)は低いが、「少額では購入しづらい」「商品の種類が多く自分で選択できない」が高い。

【投資信託の非購入理由(重複回答)／時系列－保有未経験層ベース】



【投資信託の非購入理由(重複回答)／基本軸1－保有未経験層ベース】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【投資信託の非購入理由(重複回答)／基本軸2－保有未経験層ベース】

